

幼 兒 教 育



第 四 卷 第 四 號 第 四 號

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (再版)

觀察の實際

菊判一三〇頁
定價金壹圓
送料東京金六錢
市内金六錢
料其他金九錢

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に何ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

幼兒の教育 (月刊)

菊版三五〇頁
送料市内金六錢
地方北海道・滿洲
樺太・朝鮮
定價金壹圓五拾錢
金拾五錢

定價金壹圓
送料金六錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

文 部 省 推 薦 圖 書

幼 兒 教 育 論



〔五版出來〕

法政大學教授

城戸幡太郎著

¥ 一・八〇
〒 一・一四

去る三月三日雛祭りの夜ラ
子才を通じて全国に弘く放
送された本書の内容につい
ては今更贅言を要しないと
信じます。

幼児を直接指導される保母
様は勿論、あまねく世のお
母様方にも是非読んで戴き
たいと思ひます。

— 網 大 次 目 —

- 一 就學前教育の重要性 ○我等は何をなすべきか○幼児教育の歴史と問題○幼児教育と國民教育○幼児生活と保育者
- 二 社會事業と保育事業 ○フレイベルとオーウエン○社會事業と兒童問題○貧困兒童の問題○農繁期託兒所の問題○農村における保育事業の託兒所と母親學校
- 三 保母の立場と教養 ○利用厚生教育○保母は子供に何を求むべきか○子供の保母に何を求めてゐるか○保母の教養○保母養成の問題
- 四 幼児教育の研究法 ○學問研究の態度○兒童心理學の發達○保育問題の解決法○自由遊びについての調査○遊具と幼兒の社會性
- 五 幼兒生活の指導法 ○幼兒指導の態度○幼兒と言葉の訓練○子供の問と答○子供の嘘について○子供の生活指導○兩親教育の問題

法政大學教授 城戸幡太郎著

¥ 一・一八〇

生活技術と教育文化

東京帝大講師 青木誠四郎著

¥ 三・五〇

兒童心理學

東京文理大講師 波多野完治著

¥ 二・八〇

兒童生活と學習心理

大和塾幼稚園 坂内ミツ著

¥ 一・五〇

幼稚園の生活

東京神田區一ツ橋二丁目 賢文館 振替口座東京一〇八番
月刊教育新潮 各書內容見申込進呈



第 四 號 幼 兒 教 育 の 第 十 四 卷

目 次

扉

幼稚園の理解の普及の必要	倉橋惣三(一)
幼稚園と國民學校	堀七藏(三)
小學一年生教育を通しての所感	弘田芳弘(九)
新入園兒の健康保育	廣瀬興(一五)
四月の幼兒童謠	葛原しげる(一九)
お猿さんの誕生日	武田雪夫(二六)
入園當時の躰について	坂内ミツ(二九)
四月の幼稚園	及川ふみ(三三)
四月さいふ月は泣いたり笑ったり怒ったり	留岡よし子(三六)
四月の家庭蔬菜園	大岩金(元)
「幼兒の母」の計畫に就て	倉橋惣三(三三)
幼兒の母	會根保(四)
幼時の追憶	會根保(四)

ハイデイ——ヨハンナ・スピリ原作——津田芳雄譯(四)

石 森 延 男 著

東京市神田區神保町三丁目一
九 大阪市住吉區北田邊町三〇六

横 山 書 店

幼な子へのお話

四六版二百五十頁
色刷美術挿繪八葉
裝 禎 瀟 洒

Y. 1.60

お母さんや幼児の先生方は、お子さんたちから、お話をせがまれないでせうか。お話がなくなつてお困りにならないかしら。そんな時には、どうすればいいのか、どうすればお話が作れるやうになるのか。この本は、そのことについてわかりやすく丁寧に書いてあるそれは美しい手引書であります。

推薦の言葉

倉橋惣三先生

お母さんにお話をきかせていただくことは、子ぎもの大きな幸福である。しかもその幸福は、お母さんの方に、もつと大きいかもしれない。この幸福に氣がねしてゐるお母さんが必ずしも少くない。「お話をしらないから。」そんなことに氣おくれしては、わが子の求める幸福を與へかねたり自分の幸福を我ごうけかねたりしてゐる。「お話なんてそんなにむづかしいものではありませんよ。」といひながら、にこやかに相談相手にならうとしてゐるのがこの本である。本書が、お母さん方の幸福を増すことを疑はないと共に、幼児の先生にも、姉さんにも、ぜひ薦めたいと思ふのは私ばかりではあるまい。



二千六百年といふ年代は、子どもに、或は持ちにくい理解かも知れない。神武天皇さまといふことに至つては、子どもは、日本の幼児として、最もよく知つてゐる。その一例がこの繪である。お話を幾度聞いたことが、歴史の筋も、時代考證も、ちやんと通つてゐる。子どもの二千六百年は、これでいゝのであらう。肇國から今日へ。それが一つに結びついて思はれる程、純一貫の二千六百年なのである。まことに有り難いことである。

幼稚園の理解の普及の必要

倉 橋 惣 三

いつでもであるが、毎年四月には殊に思ふことである。幼稚園といふものに對する、世間の理解の餘りにも少いこと、驚くばかり間違つてゐたりすることである。三月頃の新聞には、幼稚園の必要、不必要が囂々として論じられる。そして、相當無責任な幼稚園攻撃論が出たりする。なかには、平生幼稚園のことに近い関係をもつてゐる人で、幼稚園の缺點列擧を平氣でやつてゐるのがあつたりする。一般世間の理解程度も察せられるのである。殊に、新らしく入園を希望する人々が、随分いゝ加減な理由を述べたり、少くも、その理由がさんざあやふやであつたりすることが稀でない。困つたことと思ふのである。

ところで、なぜそうなのか。話を聊か逆らせ過ぎるやうであるが、我國では、學校にしたつて、その本質的理解は、案外よく普及してゐない。たゞ、學齡になつたから、隣の子といつしよに學校に入れる。入れるも入れないもない。四月になれば花が咲くのと同じ位に心得られてゐるものもあるかも知れない。中等學校にしたつて、子どもが行きたいといふし、小學校だけではねこいふ位のことで、つまりは後々のためを考へるだけで、中學校なり高等女學校なりが、一體さういふ本質のものか、それはよく知らなかつたりする。幼稚園も、その仲間である。新らしく義務制になつた青年學校なんか、まるで理解せられてないのを慨かれたりするが、古くからある幼稚園が、まださうなのである。これらはつまり、ここでもその理解を進めようさせず、教育に關する國家の計畫を、しつかり或は懇切に、國民に知らせる方法が執られないからである。その爲、なかには、幼稚園に入れてから話を聞いて、はゝあ、さういふのですかといつたりするのがある。失望するのではなく、大に喜ぶのであるからいゝやうなものゝ、初めから、それが分つて希望したのであつたらさ、少々あつけない譯でもある。

更に考へて見るに、その方法に就て國の懇切が足りないといふ外に、當面の自治體が、自ら公立の幼稚園を立てゝるながら、その力の入れ方が甚だ不充分であり、世間にその熱意の示し方が足りないのも、おのづから困をなしてゐるのであらう。ほかの行政でも同じだが、教育行政は特に、行政主體の熱意によつてこそ生きるものである。上級學校には力こぶを入れる割に、幼稚園のこまなにか、目からこぼれるのが、高級行政官といふのでは、何んこもしょうがない。それはえらいのでなく、教育の關心の綱の目があらいだけの話であるが、我國では、行政官に教育行政の教養が充分でない場合もあつた。それで、こんなこも起るのである。

しかし、こんな風に、人に求めてのみるでも仕方がない。幼稚園に直接關係してゐる、即ち、世に先んじて幼稚園を理解してゐる者が、世間の理解を進めることに、もつこ力をつくさなければならぬのであるまいか。勿論それゆゑ行つてはゐるが、まだ、足りないのであるまいか。それも、我が國の宣傳といつた風に見える方法でなく、全般的に、幼稚園教育そのものゝ理解をすゝめるやうに、個々、又協同の努力がゐるのであるまいか。東京の或る近縣の町で、春近くなるに、町全體へ呼びかけて、幼稚園の理解をすゝめる試みを毎年行つてゐるところがある。至極くいゝこまだと思はれる。必ずしも、そうした方法ばかりでなく、協同のボスターなごも一法であらう。青年學校に就ては、此法が執られてゐて、效果が多いと聞いてゐる。大阪市で「幼稚園はさういふところか」といふパンフレットを一般に配布したこまがあり、今つづいて行はれてゐるかさうか知らぬが、流石に氣のはいつたやり方だ感心したこまがある。その文に、私の舊稿が用ゐられてゐるので、私の口からその効果を吹聴するこまは心臓が強過ぎるし、もつこいゝ文章なら尙いゝと思ふが、その方法は確に有效なるべきものである。「幼児の母」の三月號も或はそんなこまに利用して頂いたらと思つてゐた。兎に角、講演なり、ボスターなり、文書なり、いろゝの方法があるであらう。但しこれは、こままでも全體的に、一般的に、幼稚園といふものゝ理解を進めるため、各國が自分の園をよく思はせるために、假りにも他の園の非難をしたりするのは、そんなこまもあるまいが、若しあつたら、それは却つて、幼稚園といふものゝ理解を害するこまになる。私のこまに言つてゐるのは、共同戦線といつたこまであるのは言ふまでもない。

幼稚園を理解させ、一人でも多くが、正しい理解を以て幼稚園に来るやうにするこまは、幼稚園のためといふよりも、日本の學齡前幼児のためにするこまである。我田引水のやうだなんて、そんな氣兼ねは一切いらぬ。

幼稚園と國民學校(二)

東京女子高等師範學校教授

堀

七

藏

一、教育審議會

近時新聞紙上に屢々「國民學校」に關する記事が載つてゐるのでそれを解説して幼稚園保育に従事せられる方々に參考に供することは強ち無意義ではないと考へる。

さて國民學校とは何かといふことを説明するに先ち、教育審議會について解説せねばならぬ。それには更に昭和十二年十二月十日公布せられた勅令を引用する必要がある。一體、勅令、閣令、省令、府令等は所謂政府より發せられる命令で、法律とは異なる。法律は帝國議會に於て協賛せられるもので、帝國議會を立法府といふのはその爲めである。府令なり縣令なりは府縣より發せられる命令であり、また總督府よりの府令もある。尙ほ關東局よりの局令もある。省令は文部省なり農林省なり各省より發せられ、閣令は内閣より發せられるものである。例へば幼稚園令施行規則や小學校令施行規則は文部省令である。

ところが勅令は是等と異なり、必ず上諭が附せられるもので、現行の中學校令でも高等女學校令でも、

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(明治三十二年二月七日勅令第二十八號)

朕高等女學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(明治三十二年二月七日勅令第三十一號)

といふ如く上諭が附せられてある。また幼稚園令や小學校令には次の如き上諭が附せられてある。

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ幼稚園令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(大正十五年四月二十二日勅令第七十四號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

ヲ公布セシム

(明治三十三年八月二十日勅令第三百四十四號)

右の如く幼稚園令や小學校令はその上諭に樞密顧問ノ諮詢ヲ經テあるやうに、樞密院に御諮詢になつた後に御裁可

になつたものである。しかし中學校令や高等女學校令は樞密院に御諮詢になつた勅令ではない。

ところが教育審議會官制には優渥なる上諭を拜してゐる。

朕文物ノ進運及中外ノ情勢ニ鑑ミ國本ヲ無窮ニ培ハンガ爲内閣ニ委員會ヲ設置シ教育ノ内容及制度ヲ審議シ其ノ刷新振興ヲ圖ラシムルノ必要ヲ認メ教育審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(内閣總理大臣副署)

それで教育審議會は昭和十二年十二月、優渥なる上諭を拜し、内閣に設置せられ、總裁一人及委員六十五人以内を以て組織せられてゐる。そして教育審議會第一回總會に於て内閣總理大臣より發せられた諮問第一號

我が國教育ノ内容及制度ノ刷新振興ニ關シ實施スベキ方策如何

につき慎重審査を行ひ、既に青年學校教育義務制實施に關する件を答申し國民學校、師範學校及幼稚園に關する件を答申し更に中等教育に關する件を答申を了した。尙ほ進んで鋭意審議中である。

二、國民學校、師範學校及幼稚園に關する審議

教育審議會第十回總會(昭和十三年十二月八日)に於ける原總裁の挨拶は次の如くである。

私から一言御挨拶を申し上げます。昨年十二月二十三日、

内閣總理大臣より「我が國教育の内容及制度の刷新振興に關し實施すべき方策如何」といふ諮問を本審議會に提出されました以來、僅か一年足らずの間に本審議會に於きましては、曩には青年學校義務教育に關する要綱を決定答申致し、本日又更に國民教育の基礎たる國民學校に關する要綱、師範學校に關する要綱、幼稚園に關する要綱を決定することが出来ましたことは、委員諸君の御精勵御努力の結果でありまして、國家の爲め洵に慶賀に堪へない次第であります。殊に特別委員諸君、就中整理委員諸君は皆御多忙の方々でありますに拘らず、國家の爲めは申しながら、非常な御熱心御努力を以ちまして、先程特別委員長の御報告の通り、此の複雑にして又重要な問題に付て、皆様の御満足になるやうな答申案を決定されましたことは、私も常に目撃して居りまして感激に堪へなかつた次第であつたのであります。茲に此の議案議了致しましたるに際しまして、特別委員、就中整理委員諸君に對しまして厚く感謝の意を表します。

以上、第十回總會に於ける原總裁の御挨拶によつても明かなる如く、教育審議會は總會を開くこゝ八回にて一應教育の刷新振興に關する全般的意見の交換を了り、第八回總會に於て原總裁より三十名の特別委員を指名の上諮問第一號の審査を付託せられた。

特別委員會は爾來每週二回開會し審議を進めた。最初審議の順序方法に付て議したところ、結局全般的關聯を考慮しつゝ具體的な基礎問題より審議に入るこゝとし、先づ學制全般の礎石たる初等教育及幼児保育の問題を採上げて議題とし、次いで之を密接不離の關係ある師範教育に及び一應の論議を終了せる時、恰も政府より青年學校教育義務制實施に關する要綱が提出せられたので、改めて之を議題として審議が進められた。かくて特別委員會を開くこゝ十七

回に及び、意見の發表も一段落を見、十三年六月、特別委員中より九名の整理委員を選定し、總會並に特別委員會に於ける各委員の意見を整理して答申の具體案を作成することを委囑せられた。而して先づ緊急決定を要する青年學校義務制實施に關する件を取纏めて總裁に報告せられた。その後整理委員會は引續き初等教育、幼児保育及師範教育につき慎重審議を繼續せられ、會を重ねること十四回、各委員の精勵に依り學制改革の第一石として全員一致を以て國民學校に關する要綱並に幼児保育に關する要綱の決定を見たのである。更に其後引續き師範學校の部に入り、十回の審議を經、是亦全員一致を以て師範學校に關する要綱の決定を見、是等諸案を一括して林整理委員長より其の報告を田所特別委員に提出せられた。依つて同報告に基づき特別委員會は三回に互りて慎重審議を遂げ、全員一致を以て之

を可決し原總裁に報告せられたものである。

三、國民學校、師範學校及幼稚園に關する件答申

教育審議會原嘉首總裁より昭和十三年十二月八日内閣總理大臣に答申せられた國民學校師範學校及幼稚園に關する要綱は次の如くである。

國運未曾有ノ伸張ニ伴ヒ、東亞並ニ世界ニ於ケル我が國ノ地位ト使命トハ愈々重大ヲ加フルノ秋ニ當リ、教學ノ本旨ニ則リ、時代ノ要望ニ應ジ、教育ノ内容及制度ヲ全面的ニ刷新センガ爲先ヅ國民全體ニ對スル基礎教育ヲ刷新シ其ノ擴充整備ヲ圖リ、新學制ノ根柢ヲ確立スルト共ニ克ク皇國ノ負荷ニ任ズベキ國民ノ基礎的鍊成ヲ完カラシムルコト最モ根本ニシテ極メテ緊要ノ國策ナルヲ認ム。依テ茲ニ義務教育ヲ八年トシ、其ノ内容ニ刷新ヲ加へ、皇國ノ道ノ修練ヲ旨トシテ國民ヲ鍊成シ、國民精神ノ昂揚、知能ノ啓培、體位ノ向上ヲ圖リ、産業並ニ國防ノ根基ヲ培養シ、以テ内ニ國力ヲ充實シ、外ニ八紘一字ノ聲國精神ヲ顯現スベキ次代ノ大國民ヲ育成センコトヲ期セリ。

凡ソ教育ハ第一ニ教師其ノ人ヲ得ルヲ以テ要諦トス。國民基礎教育義務制ノ刷新整備モ之ヲ要スルニ教員養成制度ヲ一新スルニ非ザレバ所期ノ效果ヲ收ムルコト難シト謂ハザルベカラズ。是ヲ以テ師範學校ノ教育ヲ根本的ニ改メ、

皇國ノ道ノ修練ヲ重ンジ、次代ノ大國民育成ノ重責ニ任ズベキ人物ヲ養成スルヲ旨トシ、其ノ程度ヲ高メ、人材ヲ招致スルノ方途ヲ講ズルト共ニ學校ノ施設ヲ一體トシテ人物練成ノ道場タラシメ、克ク皇國ノ世界史ノ使命ト國民教育ノ重大性トヲ自覺シ時代ノ先覺タルノ修養ヲ積ミ、教育ヲ以テ皇國ヲ翼贊シ奉ルノ信念ヲ養フヲ要ス。

皇國ノ發展ニ備ヘテ、就學前ニ於ケル幼兒ノ身心ノ健全ナル發達ヲ圖リ、純良ナル性情ヲ涵養シ、國民育成ノ素地ヲ培フハ極メテ切要ナリ。是レ固ヨリ家庭教育及女子教育等ノ振興ニ俟ツ所多シト雖時勢ノ推移ニ伴ヒ家庭ヲ扶ケテ幼兒保育ノ完キヲ期スルノ要愈々緊切ナルモノアリ。將來一層幼稚園ノ普及發達ヲ圖ルト共ニ其ノ内容ノ整備ヲ期スルハ、國民基礎教育ノ刷新ト相俟ツテ刻下須要ノ時務ナリト謂フベシ。

敘上ノ趣旨ニ依リ左記國民學校ニ關スル要綱、師範學校ニ關スル要綱及幼稚園ニ關スル要綱ヲ審議決定セリ。政府ハ宜シク周到ノ用意ヲ以テ具體的方策ヲ樹テ、速ニ其ノ實現ヲ期スルト共ニ、他面之ニ關スル調査研究竝ニ指導監督ノ機關ヲ整備シ、十分ナル實績ヲ收ムルニカメラレンコトヲ望ム。

記

國民學校ニ關スル要綱

一、國民學校ノ修業年限ヲ八年トシ之ヲ義務教育トスルコト

二、國民學校ヲ分チテ初等國民學校及高等國民學校トシ、初等國民學校ノ修業年限ヲ六年、高等國民學校ノ修業年限ヲ二年トスルコト

初等國民學校ノ教科ト高等國民學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ國民學校トスルコト

三、保護者ハ兒童六歳ヨリ十四歳ニ至ル迄之ヲ市町村立國民學校ニ就學セシムベキモノトスルコト

四、國民學校ノ教育ハ左ノ趣旨ニ基ヅキ國民ノ基礎的鍊成ヲナスモノトスルコト

(一)教育ヲ全般ニ互リテ皇國ノ道ニ歸一セシメ、其ノ修練ヲ重ンジ、各教科ノ分離ヲ避ケテ知識ノ統合ヲ圖リ其ノ具體化ニカムルコト

(二)訓練ヲ重ンズルト共ニ教授ノ振作、體位ノ向上、情操ノ醇化ニカヲ用ヒ、大國民ヲ造ルニカムルコト

五、國民學校ノ教科ハ前項ノ趣旨ニ從ヒ、之ヲ縱ニ統合シテ別紙記載ノ通トシ、各々其ノ統合ノ精神ニ徹セシムルト共ニ一面其ノ特色ヲ發揮セシメ、窮極ニ於テハ是等ノ教科ヲ國民鍊成ノ一途ニ歸セシムルコト

六、教育ト生活トノ分離ヲ避ケ國民生活ニ即セシムルヲ以テ旨トシ、高等國民學校ニ於テハ特ニ此ノ點ニ留意シ劃

一ニ泥マズ克ク其ノ效果ヲ收ムルニカムルコト

七、教科書ニ付テハ國民學校教科設置ノ趣旨精神ヲ徹底スルト共ニ内容ノ整備改善ヲ行フ爲必要ナル改訂ヲナスコト

八、國民學校ノ編制ニ關シテハ其ノ教育ヲ徹底セシムル爲

特ニ左ノ事項ニ留意スルコト

(一)學級數及一學級ノ兒童數ニ付テハ夫々適當ナル制限ヲ設ケ成ルベク其ノ減少ヲ圖ルコト

(二)教員組織ニ付テハ一層有資格者ノ充實ニカムルコト

(三)二部教授ハ特別ノ事情アル場合ニ限り適當ナル制限ヲ設ケ之ヲ認ムルコト

九、身心一體ノ訓練ヲ重視シテ兒童ノ養護、鍛鍊ニ關スル

施設及制度ヲ整備擴充シ左ノ事項ニ留意スルコト

(一)特ニ都市兒童ノ爲郊外學園等ヲ獎勵スルコト

(二)全校體育、學校給食其ノ他ノ鍛鍊養護施設ノ整備擴充ヲ圖ルコト

(三)學校衛生職員ニ關スル制度ヲ整備スルコト

十、教員ノ保健衛生ニ關シ適切ナル方策ヲ講ジ、特ニ教員

保養所其ノ他ノ保健施設ノ整備擴充ヲ圖ルコト

十一、國民學校正教員ニシテ始メテ教員ノ職ニ就キタル者

ニ對シテハ、六箇月ノ試補期間ヲ設ケ、校長ヲシテ教育ノ實務ニ關シ特別ノ指導ヲナシムルコト右期間中ト雖

正教員タルノ待遇ニ付テハ異ナル取扱ヲナサザルモノトスルコト

十二、教員ノ地位ヲ向上セシメ國民教育ノ振興ヲ圖ル爲國民學校教員俸給支辨ノ方法ヲ改メ、教員俸給費ハ國庫負

擔トナスノ建前ノ下ニ適當ナル方策ヲ講ジ速ニ之ガ實現ヲ期スルコト

十三、就學獎勵施設ノ擴充整備ニ關シ十分ナル方策ヲ講

ジ、各種社會法制ニ付適當ナル考慮ヲ加フルト共ニ貧困ニヨル就學ノ猶豫及免除ハ之ヲ廢止スルコト

十四、精神又ハ身體ノ故障アル兒童ニ付特別ノ教育施設並

ニ之ガ助成方法ヲ講ズルヤウ考慮シ、特ニ盲聾啞教育ハ國民學校ニ準ジ速ニ之ヲ義務教育トスルコト

十五、學校ト家庭ト相俟チテ國民學校教育ノ完キヲ期スル

ニカメ、之ガ爲適當ナル施設ノ整備ニ付考慮スルコト

十六、高等國民學校ニ修業年限一年ノ特修科ヲ置クコトヲ

得ルモノトシ、實業其ノ他地方ノ事情ニ適切ナル教育ヲナスヲ得シムルコト

十七、國民學校制度實施ノ上ハ青年學校普通科ハ之ヲ廢止

スルコト

十八、國民學校制度實施ニ際シテハ現ニ教員ノ職ニ在ル者

ニ對シ國民學校教育ノ精神ヲ徹底セシムル爲必要ナル再教育ノ施設ヲ行フコト

初等國民學校教科

一、初等國民學校ノ教科ハ左ノ四教科トナスコト

國民科 修身(禮法ヲ含ム)、國語、國史、地理

理數科 算數、理科

體鍊科 武道、體操(教練、遊戲及競技、衛生ヲ含ム)

藝能科 音樂、習字、圖畫、作業、裁縫(女)

備考

(一)國民科ハ第四學年以下ニ在リテハ修身、國語トシ、

修身教材、國語教材ノ外、國史教材、國土教材、東亞及

世界教材ヲ配スルコト

(二)理數科ノ理科ハ第三學年以下ニ在リテハ自然界ノ事

物現象ノ觀察トスルコト

(三)體鍊科ノ武道ハ第五學年以上ノ男子ニ之ヲ課シ、女

子ニ在リテモ之ヲ課スルコトヲ得ルコト

(四)藝能科ノ作業ハ第四學年以下ニ在リテハ主トシテ手

工トスルコト

裁縫(女)ハ第四學年以上ニ於テ之ヲ課スルコト

(五)行事ヲ重視シ出來得ル限り之ヲ組織化スルコト

(六)各教科ニ互リ左ノ事項ニ關スル教材ニ付十分留意ス

ルコト

イ 東亞及世界 ロ 國防 ハ 郷土

一、第一學年、第二學年ニ付テハ周到ナル監督ノ下ニ全部

八

又ハ一部ノ教科ノ綜合教授ヲナスコトヲ認ムルコト

高等國民學校教科

一、高等國民學校ノ教科ハ左ノ五教科トナスコト

國民科 修身(禮法ヲ含ム)、國語、國史、地理

實業科 農業、工業、商業、水産ノ一科目又ハ數科目

理數科 算數、理科

體鍊科 武道、體操(教練、遊戲及競技、衛生ヲ含ム)

藝能科 音樂、習字、圖畫、作業、家事(女)、裁縫(女)

備考

(一)實業科ニ於テ農業ヲ課セザル場合ハ每週適當ナル時

數ヲ農耕の戶外作業ニ充ツルヲ建前トスルコト

(二)體鍊科ノ武道ハ女子ニ在リテモ之ヲ課スルコトヲ得

ルコト

(三)行事ヲ重視シ出來得ル限り之ヲ組織化スルコト

(四)職業指導ニ付考慮スルコト

(五)各教科ニ互リ左ノ事項ニ關スル教材ニ付十分留意ス

ルコト

イ 東亞及世界 ロ 國防 ハ 公民

ニ 郷土

一、各教科ノ科目ニ付テハ前掲ノ外、地方ノ實情ニ應ズル

ヤウ外國語其ノ他ヲ加設科目トシ又ハ之ヲ隨意科目トス

ル等適切ナル方法ヲ講ズルコト

(以下次號)

小學一年生教育を通しての所感

東京女子高等師範學校訓導

弘 田 芳 弘

はじめに

此の小篇述は小學校側から幼稚園に對する要望でもなければ、保育についての感想でもない。尙更ら小學校の代表意見で決してない事をおこぼりせねばならない。小學校の普通の教員、極く平凡な存在、それが私の實在であるから。

けれども、私は教育に生きる歡喜を感じ、いつも生命の躍動に突入して行つては教育といふ仕事の崇高な事に、畏敬してゐる。強ひて言へば私の擔任する小學校一年生、それは色々の幼稚園より選抜されて入學して來た三十三名の兒童達であるが、私はその子供達の教育に、唯々全身全靈を打ち込んでゐる。更に又世にありさあらゆる教育者に決して劣らないと信する熱烈と眞摯とを武器にして、懸命に勵んで居ると信じてゐるのである。それ故實に平凡な存

在ではあるが一面その有りふれた經驗が、一般の小學校の意向を語り、普通なるが故に世の多くの幼稚園に向かつて希望するであらう色々な参考を含んでゐると考へる次第である。

私の擔任する子供達は男兒十八名、女兒十五名であるが、その出身を調べるに、唯一名を除く外の子供は全部半年乃至二ヶ年間の幼稚園保育に、惠まれた幼児期を送つた兒等である。その出身幼稚園は實に十園に互つてゐるのでいきほひ種々の代表的幼稚園を網羅してゐると思ふ。この兒等の一ヶ年間の教育を反省して、特に氣のついた點を申し述べる事としよう。

一、性格の圓滿といふこと

幼稚園保育が性格の陶冶に微温的であつてはならないと

思ふ。否むしろ積極的であつたが故に、最初の小學校教育にこれ程の幸福ミ効果が齎らされるかについて感謝さへして居るのである。

兒等は皆天真爛漫であつてほしい。嬉々として遊び、闊達に行動し、快活に何でも先生に向かつて語り得る子供に育て、行く事は小學校幼稚園共何れに於いても大眼目である。しかし小學校では尙これ以上子供らしいといふ性格の上に國家的な性格、皇民としての各方面の性格の基礎を充分に躑けて置くといふ大方針を掲げて銳意努力せねばならないのである。幼稚園に於いて明るい子供らしい子供に育てられる事に積極的であつてほしい内容として次の様な實例を擧げる事が出来ると思ふ。

(イ) 恥づかしがりの泣蟲

Ⅰ兒。入學當時よくめそ／＼泣いた男兒である。しかもそれに恥づかしがりまきてゐる。讀本をよませようとい名しても、或は一話しかけてもすぐ泣顔になる。機嫌をさつて聞いてみても一語も發しない、じつと下を向いて目に涙をためてゐる。實に苦心した。機會をさらへて他の子供達と同時に同じ事を答へさせたり、共に讀本を朗讀させたり、更にこの兒の心の中にくひ入つて共に遊び互に戯れる様にした。それが今日一年後では、二千人を容する大講堂の舞臺に立つて學藝會もやれば、教室内でさん／＼發表

もする。室外の運動ではいつもリーダー格である。こいふ様になつた。

(ロ) 寡言沈黙の兒

Ⅱ兒。Ⅰ兒等。これは前者の表型的なのに對して内向的な性格であらうか。女兒に多い。問を發しても答へない。色々聞いてもせい／＼頷づいて肯定するか、頭を振つて否定を示す程度。教科以上に種々苦心の結果今では随分よく發表する様になり色々語り得る様になつたと思ふが、それでも時々思はしくない。

(ニ) 附和雷同性

Ⅲ兒。誰かが奇聲を發すれば直ちに模ね、變つた事をすればすかさず試みる。御不淨に立つ者があれば必ず後を追ひ、ふざければその通りしてみせる。前二者に對して反對な明朗に過ぎた弊であらう。唯々Ⅲ兒に限らず、男兒一般の傾向であるが、これはむしろこの時代の子供の模倣性の特質かも知れないが、私は特に良い事はまねるが悪い事は模倣しないといふ様に躑けて居るので今では全兒に相當な理解が出来た様である。

(三) 利己的な嫌はれ者

Ⅳ兒。小學校で入學當初先づ強調する事は團體的、協同的な訓練である。皆の迷惑にならない様にする事、みんな遊び共に愉快に運動し、一つしよに勉強する事、皆さん

の爲めになる事をしませう、等である。この團體的訓練は、非常な好成绩で進歩したのであつたが、これは一に保育の効果であるを敬服してゐるのであるが、この中に伍して唯一人、排他的傾向を示したのは一兒であつた。面白い話も随分有るが略しよう。

(ホ) 取り付き難い兒も甘つたれて来る兒

一は小學校入學といふ自覺が子供の程度を超過して、母親等から強制されて、おまなしい子として昔から謂ふお行儀よい子となつた行き過ぎであり、他者は幼稚園そのまゝを小學校に持つて来て、「ね、先生、僕ね。」とさしきりにかみついて来るのみならず何でも手を焼かせようとする及び足りない方向である。故に前者はむしろ世の親達を戒めねばならないし、後者は小學校教師自身の反省に待たねばならない。が、何れも小學校に入るに際して現れる事であるからには、責は小學校側にあると言はねばならないであらう。

(ハ) 幼稚園との聯絡

前月號に倉橋先生が「幼稚園と小學校の聯絡」について述べて居る。その中「小學校の教育に有效に役立てて頂き度い點の最たるものは幼稚園に於いての幼児の性格の圓滿な陶冶を、この幼児の性格の「正しき通告」であらうと私は考へる。一朝一夕にして出来上り得べくもない正しい性格

の陶冶に對して、その子を愛する幼稚園の保育者、その兒等を鍛へる國民初等教育者が、相共に手を取り合つて進む事が如何に必要缺くべからざる點であるかを痛感されるのは倉橋先生のみではないと思ふのである。國民初等教育のスタートは先づ幼稚園の形式を取り入れ、子供の遊びを通して遊びの中に性格を陶冶しつゝ、團體協同的な規律訓練を爲し、各教科教育を施して行く事から始めるのは、今日一般の状況であらうと思ふ。この形式を所謂綜合教授なりとして非難したり又は無反省に迎合して綜合の爲めに綜合したり等する道はづれば多少あらうとも、幼稚園の形式を良く取り入れて、小學校への轉移を圓滑に計る事は必然の教育形態であると思ふのである。

二、兒等の生活そのもの充實より言つて

小學校の教育は中學校の入學準備でも無ければ、子供達がやがて大人になつた時に必要な準備を整へるものでもない。子供の現在の生活を、日本の子供の生活として充分意義づける事自身が目的である。餘り常識的な事に走り過ぎたが、幼稚園もこれと同様の事が言へるのであらうと思ふ。幼児の生活それ自身を充實させ豊富にする爲めに、小學校經驗よりの所感として申し述べて見る。

(イ) 音楽及び遊戯について

不幸私にはこの方面の修養が無いだけにその必要を痛感

し意義を強調する次第である。私の擔任した子供達は一週間の中教科内で體鍊科として四時間、音楽として二時間、教科外では始業前、運動時、中食後少くも毎日一時間づつ合計週十二・三時間はこの方面の教育を受けて居るのである。けれどもまだこの方面の時間が足りない。言ひ換へればもつ／＼遊ばせ歌はせ遊戯させてやりたいと思ふ心で一つばいである。子供達の健康、體位の向上より言つても尙更大切であると共に情操の陶冶、鍛鍊の徹底より言つても殊に肝要であると思ふ。

けれども此の兒等を天真爛漫にするこの音楽・遊戯に對して、國民體位の向上をも根柢とした國民學校制では第一學年に音楽體鍊として週四時間しか充當して居ないのであるが、たつた四時間で遂げねばならない小學校側としては、教育の一貫、連續的發展といふ立場より言つても、勢ひ幼稚園に於いては、更に子供達に適するこの律動的遊戯の強調を要求したいと考へるのは豈私のみではないだらうと思ふ。

歌ひ得ない子供達、リズムを教はらない兒童、動く事を奪はれた子供程、みじめなものはあるまいと思ふ。明快に歌ひ嬉々として遊戯するところに天真爛漫の芽が培はれ育てられて行くものと信ずる。

(ロ)「手技」に「大人の型」

保育項目中の手技にどんな内容が有るのかよく知らない。けれども私の兒童を通じて、彼等がその幼兒時代に愉快に造り面白く描き、存分にいちづつて來た事にはむしろ驚嘆してゐるのである。そして所謂よく出来る子供程、造形描畫等による發表の巧みである事、作業に學科成績との相關の甚だ大である事を痛感してゐるのである。けれども作業能力の拙劣な子供に限つて容易に手を出して造らうしない場合に屢々出會つたのであるが、その原因の大部分をなすものは、その子供の技能の未熟といふ事よりも、むしろ幼稚園の保育の鄭重さが禍ひをなしてゐる事を知つて驚いたのである。幼兒は何もしないで、保姆の先生の紙を折り缺で切り抜き糊付けをされるのを見守つて居て、最後に指示される紙の位置に押し附ければよい。そして糊が乾けばそれを家に持つて歸つて、自分が造つた如く親達に見せて賞讃を得ればよい。といふ様な極端な例さへ有る様である。もつとも私立の幼稚園では時にこんな行き過ぎをして居るところが有るかも知れないと思ふが、私達自身の教育でも反省を要する點であらうと自戒してゐるのである。外見はたごへごんなのでも造る過程を心から楽しみ、描く間に色々な陶冶が成されて居る事こそ尊い教育であると思ふのである。私はこれを絶えず參觀人を引き受け

る私達の教育に對する天の聲として聞くと共に、私の教育でも出来上つた外見「大人の型」に執らはれる事のない様にせねばならないと常に心掛けてゐる。子供の繪を見てつづく思ふ事は、如何なる世界的の藝術家が模しても兒等の作品には遠く及ばない、さいふ點である。私は絶えずこれを忘れない様に努めてゐる。更に來年度より實施の國民學校制では藝能科の圖書及び作業として週二時間しか配當して居ない事である。二時間の時間内で子供達の思ふ存分な描く事造る事がその位出来るかと思へざるを得ないのであるが、小學校ではこれを二時間として置いて他には十九時間配當して重要な國民的基礎練成が遂げられねばならぬのである。私は本年度一週作業二時間、圖書二時間、他にこの方面に使ひ得る時間を二時間故に計週五六時間位は手技に相當するものに使つたのであるが、それでもこれ等の手技そのものは申すに及ばずそれに含まれる教科發展はまだ／＼充分とは言はれないと思へて居る。小學校の準備ではないが、幼稚園兒そのものが、ぬり繪を好み、造形に纏ふ事より言つてこの方面の保育について順次發展的に企圖せられて、情操・思想の豊饒を圖られると共に、それを小學校の方へも圓滑に進めて頂いて、作業重視によつて知行合一の態度行動人を練成する方向への生きた力を爲したいと希望して止まないものである。

(二)「讀み物」を「數へる事」

近時街頭に子供讀物の進出の著しい事にむしろ驚いてゐるのであるが、これは私が近頃この方面に興味を持つたせいかも知れない。けれども擔任した子供達を通して感ずる點は、小學校に入學せざる以前から兒等は既に濫讀の傾向があり、書物を尊ぶ精神は乏しく一の商品として見たり遊びの木片と同等視してゐる點である。親達が子供の利口さを自負したいが故に文字を教へ過ぎたり徒らに多量の讀物を與へる事が有るならば警戒を要すると思ふ。小學校の國語の指導に於いて精神の伴つた言語を教へ様としてもかへつて今迄の感銘の伴はない空虚な知識の生かじりが邪魔になつてよくその作用に徹し得ない折に屢々出合つたのは私のみではあるまいと思ふ。その上浮薄に書物をのみあさつて一回目を通したのものには、深く讀む事が出来なくなつたり、時間の見境ひなく規律なく興味に引かれて讀みふける傾向となり、それが粗悪な雑本であれば更に害も甚だしいのである。この青白きインテリの雛型といふことは勿論小學校で考ふべき事であり、注意を要する事ではあるが、都會に於いては既に幼稚園時代にその萌しの多分に有る事を私の擔任の子供達について辛い經驗をしたが故に、幼稚園より注意をして頂ければ幸ひと思ふのである。小さい事ではあるが私は子供達に修身書を出し入れする時は必ず兩

手にて捧持して謹んで拜させる事を行はせてゐる。

「青少年學徒ニ賜ハリタル詔書」の謹寫を貼附してあるからである。これに似た精神が生活の中の書物に對しても現れる事を願つてゐる譯なのである。

「讀む事」の或る子供に過ぎたるが故にかへつて國語の指導に困惑を感じた私は、更らに或る子供に「數へる事」の觀念の乏しい事によつて一層の困難を感じたのである。同じく一年生とは言ふがその數へる事の程度の差は一、二ヶ年では無い程に離れて居たからである。讀む事は開きが有つても差は寡い。それは街に「讀み物」が溢れてゐて、知らず識らずの間に大體の足並みが揃ふからであらう。が所謂「數へ物」にも稱すべき部面が生活や街頭に充満しては居るが、それは「讀み物」に性質を異にして、容易に近づき得るが、一面それに眼を向けない時には、少しも收得されなないし、又近づかせ得ないで放任の形に終つても、そんなに物足りなさを感じないからである。繪本讀み物によつて思想語彙を豊富にする事以上、兎角忘却され勝ちな「數へる事」の指導・數觀念・空間觀念の補導に一層の注意を向ける必要があると思ふ。小學算術の上巻が一冊の繪本の様で親しみ易いがあるのみでは所謂兵法のない軍團であるし、更にあれ以前の數量生活の指導によつて更らに大切な具體的な基礎力を積み重ねられる事が一層望ましいのである。

より熱烈なる兒等の教育を願ふの餘り、種々な幼稚園より承け繼いだ三十三名の教育を反省するに共に、家庭教育幼稚園教育の御參考したいに考へ筆を擱く。

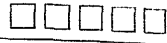
(十五、三、十五)

石^{いし}激^{はげ}る垂水^{すいすい}の上の早^{はや}蒼^{そう}の萌^もえ出^いづる春^{はる}になりにけるかも

春^{はる}の野^のに葦^{あし}探^{たず}みにと來^こし吾^{われ}を野^のをなつかしみ一夜^{ひとよ}宿^{やど}にける

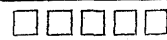
春^{はる}霞^{かすみ}ながるるなべに青^{あお}柳^{やなぎ}の枝^{えだ}くひもちて鶯^{うす}鳴^なくも

—— 萬葉集 ——



新入園児の健康保育

醫學博士 廣 瀨 興



今年も、四月になれば各幼稚園には多数の新しい幼児達が賑かに入園して参ります。この新入園児に對して、吾々保母は如何なる心がまへを以て迎へべきであるか。私はここに健康上の是非も必要なる注意の二三を述べて見ませう。

今年から中學の入學考查が大變、身體發育や體力にも考慮される様になりましたが、その結果、今更の如く小學校でも家庭でも、急に小兒の身體に注意を向けて來ました。そして試験間際になつてあれこれ相談に來られる方があります。併し、私共から云はせれば小學校時代の所謂筋骨薄弱が虚弱兒童には多くは小學校時代に初めて始つたものでなく、已に幼兒時代にその原因のあるものが大部分で、又、この時代に少し注意すればこんなにはならなかつたであらうと思はれる例が極めて多いのです。そんなことを考へても幼稚園に於ける健康保育の問題の重要性が解り

ます。又、幼稚園の健康保育が個々別々の家庭では不可能の問題を易く解決する場合も多いのです。そして、幼稚園の健康保育も、新入園時の種々の注意や幼兒の取扱や躑け方が大變大切であつて、その處置の如何によつては、反對に悪い結果をさへ招來する場合も少くないのであります。

新入園児に對して、第一に調べて置かねばならぬ事柄は。

- (一) 麻疹を経過したか (ロ) 百日咳 (ハ) 水痘 (ニ) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) (ホ) 「チフテリア」豫防注射 (ヘ) 猩紅熱

麻疹は三歳以上の幼兒なれば多くは既に經過してゐるのが普通であるが、時に應々未經過兒もあつて春先の流行時、新入園や新入學に際し、多数の小兒と接する機會に初めて感染する例が多い故、あらかじめ注意せねばならない。麻疹は年長兒程、軽く經過するのが常であるが、(俗間では年長程重い)云はれてゐるが之は誤りである)若し、

其の兒が身體虛弱であれば勿論、そうでなくとも麻疹の初期に早く母親等の血清を注射すれば軽く経過する故に家庭にすゝめて善處するがよい。又、園兒に一人でも麻疹が發生したなら、他の未經過兒にも血清を注射して、之を豫防するか、或は軽く経過せしめるかするところが賢明でありませぬ。幼稚園へ行つて麻疹をもらつて來ましたご内心大變不平の母親をよく見受けますから注意を要します。麻疹の潜伏期は一〇—一一日ですから、そのつもりで他の未經過兒に對して警戒せねばなりません。

百日咳は幼稚園にまつては大敵ですが、新入園兒は勿論、全園兒に何名、百日咳未經過兒があるかよく調べて、出來れば保護者會と相談し、豫防注射を勵行するがよい。近頃の豫防ワクチンは新鮮のものを多量に注射するので相當に有效である。私共の保育所では昨年十月七十名の託兒に行つたところ、附近に可成流行したが今日まで一名の感染もなかつた。この豫防注射は有効期間が短く、その製造元にもよるが、せいぜい一冬位見做すべきである。又、百日咳は冬に限らず一年中發生するから常に警戒を要するので、保姆は百日咳の早期發見に萬全を期すべきです。有咳兒にはマスクを掛させるか、あやしい咳の兒は登園を遠慮させることを勇敢に實行することです。百日咳は初期のカタル期と云つてあの特有の咳をする前の時期の方が却

つて傳染力が強いのですから餘程注意が肝要で、手遅れをするに遂ひには多數の園兒に蔓延して幼稚園を一時閉鎖せしめねばならぬ様なことが應々出來いたします。本症潜伏期は二—三日ですから若し、一人でも發生したら直ちに數日休園して様子を觀る必要があります。

百日咳で今一つ困ることは癒つてから何時登園を許すか云ふことです。傳染力が無くなつたご云ふ時期は専門の醫師でも仲々判定が困難ですし、母親の方は一日も早く登園させ度いのは山々ですから、よく、もう咳が出なくなりましたご云つて來ます。それではごあづかつて見て、飛んだりはねたりするご又特有の咳を出さご云ふことになり他の保護者から大變の抗議を持ち込まれたりします。普通の経過をとり、初期に注射したりしますご大體、二ヶ月位で晝間咳が出なくなり、罕に餘りあばれたり、意氣込んだりした時だけ咳をする程度になれば、先づ傳染力はないご見做すべきですから一應専門醫の診療を受けた後、登園を許すべきです。猶、當分母親の云ひ分を總て信頼せず、二三日、マスクを掛けさせて監視を忘つてはならない。猶、百日咳經過兒は其後六ヶ月位は全快しても、感冒に患つたり、氣管枝カタルの時に又再び特有の咳に類似の咳を出すごを記憶して置くべきです。

水痘も流行性に來ますが高熱位で比較的危険のない皮膚

病ですが、今年の如く天然痘が多い時期は一層早期に発見して登園禁止すべきです。潜伏期は一四―一七日の長期です。すから他の園児に感染してゐるか否かを観察するためにこの長期間休園することも出来ず甚だ困ります。水泡性の皮膚疹を発見したなら皮膚の露出部のものは直ぐ繃帯してやることです。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)之も潜伏期が一八―二二日の長期のため思ひ出した時分にぼつ／＼發生して、眞に困る病氣の一つですし、初期の咽頭痛のある頃に既に傳染力がありますので早期発見が肝要です。發熱、咽喉カタル、耳下痛があつて幾分、耳下が腫れ氣味であつたら直ぐ保護者に注意して一兩日、監視するこゝが必要でです。近頃はズルフォンアミド劑例へばテラポール、アルバジール等こゝ云ふ特效藥が創製されたので大變治癒も早く傳染も少い様です。

デフテリアも一般に多い小兒傳染病ですが、幸ひ、豫防注射が完成されてゐます故、新入園児に未だ之が施行されて居らぬなら是非奨めねばなりません。約四年間は有效と云はれてゐます。其故、今後は生後一年目、四年目、八年目の三回施行するこゝが安全です。今時、若し小兒にデフテリアにでも罹病させたらそれこそ保護者の責任です。

猩紅熱も今、豫防注射がありますが未だ試験時代です。

併し副作用がありませんからやつて置く方がよろしい。

次に新入園児に注意するこゝは

- (イ) 痙攣(ひきつけ)の癖
- (ロ) 腹痛の癖
- (ハ) 喘息の癖
- (ニ) 脱腸の癖
- (ホ) 遺尿の癖
- (ヘ) 偏食の癖
- (ト) 口を開いて寝る癖
- (チ) イビキをかいて寝る癖
- (リ) 鼻をたらず癖
- (ヌ) 熱を出し易い癖

等々保護者より本人の家内での平素の體質をよく聴取し、今後の保育の参考すべきである。ひきつけや腹痛の癖は蛔蟲のために來るこゝも多く、或は體質虚弱や偏食なごのため抵抗力弱く少しの發熱なごでひきつけるものもある。喘息のあるものは塵埃の多い遊戯室などは一層起り易い。脱腸のあるものは萬一委託中脱出して元納せぬ時は取り敢へず熱いタオル濕布を脱腸部に當て靜かに元に納める工夫をし、然る後、歸宅せしめるこゝ。元に納められず疼痛が増して來る様なれば早速外科的手術を要する極めて危険の疾病です。尿をもらし易い兒は身體虚弱か、乳兒より生來の膀胱方の悪いために來るかである。よく原因を確め體質を改造する様努力し偏食あるものは之を矯正し或は肝油を與へたり、或は規則正しく排尿せしめたり種々試みるこゝが有効である。偏食の癖あるものは相當に多い故、幼稚園でも時々辨當を持つて來させるか、猶一層有效なのは全園給食によつて矯正するこゝである。小學校へ行つてからの筋

骨薄弱の大部分の原因を爲してゐますからこの事は極めて重要です。

口を開いて寝たり、イビキをかくものは扁桃腺肥大のものに多い。鼻をたらず子も腺病質や、扁桃腺肥大兒或は慢性の鼻炎のあるものに起るのであるが常に鼻かむ習慣をつけたり、一方、榮養に注意したり、日光浴させたりする時は漸次輕快するものである。

熱を出し易い子は多くは扁桃腺肥大か、肺門淋巴腺腫脹のものであるから一二週間も委託して猶、微熱でも出る様なれば受託を考慮する必要がある。

初めて幼稚園には入るこ云ふこは幼兒によつて精神的にも肉體的にも大變な變革ですから少くも當初一ヶ月間はよく注意して新入園兒は特別に觀察してゐるこが肝要です。

(イ)體重の増減

(ロ)登園時の機嫌の如何

(ハ)歸宅時の疲勞の程度

(ニ)微熱の有無

家庭内のみの生活では潜伏して居つた結核が急に活動性になつて、疲勞を覚えさせたり微熱を發せしめたりするこがある。それ故、新入園兒には必ず

(一)體重の測定

(二)結核の反應(マントウ氏反應)

(三)腸寄生蟲検査(蛔蟲、蟯蟲)

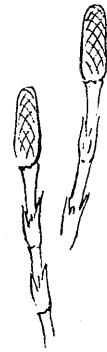
この三検査は實行し度いものである。猶、出來れば、潜伏毒の検査、之も、井出氏反應によれば一人數錢の費用で、耳よりの採血で簡單に出來、相當に正確である。斯様な基本的な検査を怠つてゐるこ、後々の如何なる教養的保育の努力も少しの効果も上げ得られない場合がある。

猶、新入園の機會を利用して其の年齢、家庭生活の程度に應じて漸次、健康上の良習慣を養ふ様謀けるこが大切である。例へば、

(イ)手を洗ふこ (ロ)鼻をかむ (ハ)うがひ (ニ)齒みがき (ホ)鼻呼吸 (ヘ)深呼吸 (ト)正しい姿勢

(チ)眼をこすらぬ習慣 (リ)咀嚼 (ヌ)偏食矯正等、健康保育の絶好の機會である。

以上の如く基本的検査を調査を新入園期に施行し、漸次健康上の良習慣即ち健康保育を實行して行けば必ず體質的に改造せられ、立派な身體となり、従つて精神的にも落ち付いた氣持が出來、心身共に正しい發育を期待するこが出来るであらう。



四月の幼児童謡

葛原しげる

四月は、まさに春酣、野に山に霞こめて、都は桃櫻をこきまぜて、です。そこで古から、「春の彌生のあけぼのに」です。四方の山邊を見渡すまでもなく、花さかりの白雲のかかりぬ峰こそなかりけれ、ですが、さうした美しい表現は、勿論、子供の世界のものでなく、幼児の童謡ではありませんが、明治十九年發行にかゝる大阪出版の『幼稚園歌集』の中には、次の二篇があります。その前者は、

—— おりなす 錦 ——

おりなすにしき さくらにすみれ
 いばらにぼたん はるこそよけれ
 うぐひすかはづ こよくくこ
 こもよびかはし さそへるものを
 われらがこもも やなぎのかげに

あそびてうたへ うたひてあそべ
 はるかぜふけば みやまはわらび
 みぞれやゆきは ゆめのゝかすみ
 もゝこり千鳥 こよくくこ
 われらがこもも やなぎのかげに
 あそびてうたへ うたひてあそべ

—— 花咲くはるの ——

はなさくはるの あけぼのを
 はやくおきて みよかしこ
 なくうぐひすも こころして
 ひこのゆめをぞ さましける
 ほうほけきよ ほうほけきよ

けきよ〜 けきよ〜

ほうほけきよ

ほうほけきよ ほうほけきよ

けきよ〜 けきよ〜

ほうほけきよ

ですが、二節にも、「こよ〜〜」柳のかげに遊
びて歌ひ、歌ひて遊べ〜が有ります。その二つの句の耳
への親しみはありましたが、幼児に、すぐ親しまれさうも
ありません、次の『花咲くはるの』にしましたも、『鶯』とい
ふ題にしてないのが、なぜか問ふまでもなく、端的に、
さうしないで、第一句の發句を三つて、そして、その美し
い句を生かして、やゝ氣がつて、かうしたものが見えます
が、「ホーホケキヨ、ケキヨ〜」の擬聲は、幼児にも親し
いものでありますものゝ、はやくおきてみよかしも、ぞ
〜けるも六かしい〜です。

明治十九年といはず、當時代の幼稚唱歌に限らず、琴に
しても、三味線にしても、手ほぎきの曲も、その歌詞は六
かしい〜でした。

明治三十四年頃の『教科適用、幼年唱歌』になります。
『てふてふ』と書かないで「ちよーちよ」にする程になつて
ますが、しかし、「風は、そよふく、そよふく風に」なつて
るまして、まだ、中々、幼児のものでありません。

——ちよーちよ——

石原和三郎氏歌
納所辨次郎氏曲

うめがちるのか さくらの花か

白にちよーちよが ひら〜まふよ

山ぶきちるのか なたねの花か

きいろのちよーちよが ひら〜まふよ

かぜはそよふく そよふくかぜに

花にちよーちよが おに〜するよ

(教科適用幼年唱歌)

また、同じ集の中にも、『春の野』と書かずに『春のの』と
目觸りにさへなる書き方になつてゐるのですが、その行届
いた氣持は肯なはれましても、「吹くとも見えぬ春風を、な
びく柳に知るばかり」といふ美しい表現はありまして、や
はり、まだ十分に、幼児のものになりきつてありません。

——春のの——

田邊友三郎氏歌
田村虎藏氏曲

ましろにみえし ゆききえて

のはおもしろく なりにけり

草もはえ 木もめばり

ひばりなき ちよーもごふ

ふくこもみえぬ 春かぜを
なびくやなぎに しるばかり

いつかさまちし 花さきて

日もあたゝかに なりにけり

こもさそひ かごさげて

すみれつみ れんげさり

あそぶもたのし 春ののに
ながきひかげの うつるまで

○

——開いた開いた——

開いた開いた 何の花が開いた

蓮華の花が開いた

開いたと思つたら

いつの間にか つぼんだ

つぼんだつぼんだ 何の花がつぼんだ

蓮華の花がつぼんだ

つぼんだと思つたら

いつの間にか 開いた

年代は不明ですが、昔も今も、遊戯唄でもあるところの
此の「開いたく」は、結構です。しかし、これは、地方に

よつて多少變つてゐるまして、廣島高師附屬小學校の編纂に
かゝる「續日本童謡民謡曲集」によります。千葉縣野田町
地方のものとして集録してある右の歌詞は、恐らく、全國
的のものでせう。現に東京でも、かういつてをります。

ところが、同じ本に栃木縣茂木地方のものとしては、各節
の「いつの間にか」が「見る間に」變つてをります。その何れ
が正しいといふことは出来ませんが、しかし、此の「な
の花」「蓮華の花」「が」の省略は宜いさしにしても「いつ
の間にか」「か」を省略しては困ります。即ち、

開いた開いた 何の花開いた

蓮華の花開いた

開いたと思つたら

までは平氣であるばかりか、却つて、強められてゐて、
效果的でもありますが、

「いつの間に つぼんだ」

となつては、

「いつの間に つぼんだ」

さいふのとは、意味が變つて來て、困ります。一體、なぜ、
かうなつてゐても、保母の方々も、お母様方も氣がつかない
で、平氣で、あり得るのでせうか。それは、その遊戯唄
としての使命は、歌詞の中の「開く」「つぼむ」「さいふこ
みにのみ重點が置かれるからで、また、その曲のリズムに引

力があるからではないでせうか。しかし、そもく、詞なくしては曲もなく、動作もないのですから、心しなくてはなりません。時々、國歌『君が代』が、「きみがわよをは」になつたり「さざれ」に「石」が、別々になつたり殊に、「巖」が分らないので、「岩音」に考へられたり、甚しいのになります。『庭音』にさへ誤られてゐる事があるのです。凡そ、唱歌といへば、さかく、曲に重きを置くのではなくても、そのメロデーに、先づ、關心をもつて、選擇され、取捨される傾向はないでせうか。

さて、大正初期の拙作の中に、かつて、東京本郷お茶水に女高師があつて、幼稚園も、そこにあつた頃、全國の保姆大會か何か、地方の方々も御會合の席で、私小松、梁田兩氏が、前年來幼兒の爲の『大正幼年唱歌』の新作に著手しまして間もない頃、幾曲かの批評を乞ふべく、試演しました時、次の『蝶々春風』の中の

菜の花 ゆらぐ
ゆらぐな 花よ

こいふ「ゆらぐ」が、問題になつた事があります。詳しい事は、舊著『童謡教育の理論と實際』に説いておきましたが、「ゆらぐ」こいふ語彙は、幼兒の世界にはないから「うごく」にしてほしいとの仰せであつたのです。それで、

のびかな風に
菜の花 うごく
うごくな 花よ
こまれよ 蝶々

こ直しはしましたが、作曲者梁田貞先生も、「うごも、『うごく』ゆらぐ』とは、氣持も違ひ、言葉の音學的要素も大違ひだから、『ゆらぐ』こいふ新語を、その内容は、説明しても、教へて、覚えさせて、同時に、柳の長い細い枝が、風に動くのは、實は、「動く』こいはないで、『ゆらぐ』又は『ゆれる』」のである。こまでも覚えさせてほしい、と、考へ定めて、原作ごほりに復活させたものであります。

—— 蝶 々 春 風 ——

葛原しげる作歌
梁田貞氏作曲

ヒラヒラ舞ふよ
きれいな蝶々
蝶々がまへば 菜の花ゆらぐ
ゆらぐな 花よ
こまれよ 蝶々
靜かに こまれ
きれいな 蝶々

ソヨソヨ風が
のびかに吹くよ

のびかな風に 菜の花ゆらぐ

ゆらぐな 花よ

しまれよ 蝶々

のびかな 風も

吹くなよ 吹くな (大正幼年唱歌第一集)

○

春の花は、桃よりも、櫻こそ日本的であり、まづ全国的
であります、國定教科書卷一の第一頁から、

サイタ

サイタ

サクラ

ガ

サイタ

であります。國語教授のうれしいスタートであります。私
の舊作でも、同じ氣持から、大正三年、はやくも、次の一
篇をもつて、スタートをきつたのでした。これについて
も、その第二節は、私の創案ではなくて、今の勤務してゐ
る九段精華學園の、實況でありまして、『童謡教育の理論
と實際』に詳しく記述しておきました。

— さ く ら —

櫻が咲いた 櫻が咲いた

野にも山にも 櫻が咲いた

咲いた櫻に 朝日がさして

野山のこらす 花の雲

櫻が散るよ 櫻が散るよ

蝶々のやうに 櫻が散るよ

風に吹かれて お池を越えて

櫻まこまで 散つて行く

「幼年唱歌」第一集より

この櫻は、多くの類作があります。

— さ く ら —

石原和三郎氏作歌
米 國 民 誌

野邊に 山に 櫻の花が

咲いた 咲いた きれいに 咲いた

花の下で 太勢遊ぶ

歌を歌ひ 鬼ごこしたり

ひらり／＼ きれいな花が

散るよ／＼ 櫻の花が

葛原しげる作歌
小松耕輔氏曲

肩の上に あたまの上に

さまる花は 歸りのみやげ (童謡名曲全集)

これは、曲が、如何にも、チラ／＼、ヒラ／＼といふ感じの、明るく軽やかな趣に満ちてゐて、床しいものゝ一つでせう。

— さ く ら —

西村醉香氏歌
室崎琴月氏曲

ひら／＼さくら お庭に散れば

お池の金魚も 目をさまし

春の日永を 遊びます

ひら／＼さくら お庭に散れば

籠の小鳥も 眼をさまし

春の小唄を 歌ひます (童謡名曲全集)

これは、各節第三行の「春の——」の次を、幼児は、取違へて歌ひさうです。もし、「春の小唄を遊びます」こも歌つたら困ります。

— 櫻 —

芦田惠之助氏歌
田村虎藏氏曲

春風吹いて 野山はかすむ

霞のうちに 咲く山櫻

美しく その山櫻

朝日の光 さしそへば

山は一面 花の雲

春風降りて 柳はめぐむ

柳のうちに 咲く八重櫻

美しく その八重櫻

夕日の光 さしそへば

里は一面 綾錦

晴れやかに、華やかに、やさしく美しいメロデーで、明治時代には、よく歌はれたものです。

— 櫻 こ 小 鳥 —

野口雨情氏歌
本居長彦氏曲

いゝ歌聞かそ いゝ歌聞かそ

櫻の花の いゝ歌聞かそ

小鳥の歌の いゝ歌聞かそ

櫻の歌は この子に聞かそ

小鳥の歌は この子に聞かそ

あしたの朝は この子に聞かそ

二節に書き分けてみましたが、それは、歌の内容の區別 (同上)

から——しかし、意味は、全然別ですから、曲は、多くの童謡や唱歌のやうに、反覆はしなくて、別曲になつてゐます。いえ、全部が、只一曲なのです。それが本當なのです、それでこそ、歌詞による作曲です。いつの程よりか、童謡も唱歌も、各節同曲のものにきまつたかの觀もあります程になつてをりますだけに、心すべきことです。

—花のトンネル—

奥野庄太郎氏歌
梁田貞氏曲

堤のお花は 眞さかり

櫻のトンネル 一二三

お手々をつないで かけ出せば

花ひらひら〜 一二三

お花のほひが のさまで通る

堤は長いよ 一二三

(同上)

けだし、幼児でなくても、此のトンネルは、ニコ〜して、かけぬけるのが惜しくて、ゆきつ、もぎりつ、よい氣持でせう。

前に出し忘れましたが、蝶の童謡には、昔のスペイン民謡ださか的一篇が、久しい昔から傳はつてをります。

てふ〜 てふ〜 菜の葉にしまれ

菜の葉にあいたら 櫻にしまれ

さくらの花の さかゆる御代に

しまれよ あそべ あそべよ しまれ (小學唱歌)

これが第一節で、第二節には「ねぐらの雀」の歌がつけてあります。曲につけた歌としては、上乘なもので、如何にも、ヒラ〜さんでゐる感じの豊かに出た曲を、よく活用してあります。

—てふてふ—

北原白秋氏歌
宮原禎次氏曲

てふ〜 てふ〜 からまつ山は

まだ日が寒く ちら〜、さべよ

てふ〜 てふ〜 三月二日

霧雲はやい ぬれ〜さべよ

てふ〜 てふ〜 からまつばらは

唐松原は もう芽が もえる

木ふかく さべよ 蝶々 蝶々

ちんころぐさも 林に赤い 大きくさべよ (同上)

少し六かしくても、よい歌よい曲、今の幼児は幸福です。

春は三月、新暦では四月こそ、いえ、五月は、それこそ、春のまん中、五月こそ春は酣、雲雀に、野遊びに、楽しい時に、幼児を、戸外に遊ばせて、大に、心身の伸長をはかりたいものです。(つ〜)

お母さま話 (幼児に読んで聞かす話)

お猿さんの誕生日

武田雪夫

さあこれは、お猿さんの誕生日のお話ですよ。
今日は、お猿さんの誕生日です。

お猿さんは、いつも自分の誕生日には、仲のよいお友だちをよんで、ご馳走をすることにしました。こんごも、昨日あちらこちらのお友だちに、お手紙を出しました。

でも、お猿さんは、まだ小さくて、お手紙が書けませんから、お猿さんのお母さんが、代りに書きました。お猿さんのお母さんは、お手紙を書くことが、それはお上手でした。

お手紙には、かう書いてありました。

する分、おあたたかになりましたが、皆さん

お元気で何よりです。

さて、私は今度、七つのお誕生のお祝をいたしたいと存じます。何もごさいませんが、さうぞ、明日のおひるから、お出かけ下さいませやう、お待ち申上げてをります。

半日をみなさんで、楽しくあそびたいと思ひます。

かういふお手紙を貰つたのは、いつもお猿さん仲のよい兎さんご栗鼠さん、鶴さんに鳩さん、それから猫さんご犬さんご子牛さんたちでした。

みんなは、ほんごに大よろこびでした。明日になるのが待遠しくてなりませんでした。だつて、

いつもお猿さんの誕生日には、それは色々の面白いことをして遊ぶのですもの。その上、おいしいご馳走が、きつさりきつさりあるのですもの。

いよいよ今日になるさ、お晝のご飯がすんで、少したつた頃、もうお客さまが来ました。

一ばんはじめに來たのは、さあ誰だつたでせう。それは、お耳のながい、兎さんでしたよ。兎さんは、箱に入つたおもちやを、お祝に持つて來ました。そして、

「これ、つまらないものですけれど、きょうぞ。」
「言つてお猿さんに上げました。お猿さんも、お母さんも、大よろこびで、

「それは、きょうも、ありがたうございます。」
「言つて、そのお祝を頂きました。」

そのうちに、栗鼠さんも、鶴さんも鳩さんも、それから猫さんも犬さんも、みんな來ました。誰も彼も、みんな、何かお祝を持つて來ました。一ばんあさから、子牛さんも來ました。子牛さんは、お母さんの牛さしよに來ました。でも子牛さんは、きょうしたのか、何もお祝を持つてゐません。お母さんも持つてゐません。きょうしたのでせう。わすれて來たのでせうか。

牛のお母さんは、昨日、お猿さんのお母さんがたのんでおいたので、ご馳走を作るお手つだひをしに來たのでありました。牛のお母さんは、お臺所で、にこにこ、にこにこしながら、お手つだひをしてゐました。するさ、みんなが、お猿さんに、おめでたうを言ふ歌の聲が聞えて來ました。

誕生日おめでたう

誕生日よ、おめでたう

お猿さんおめでたう

お猿さんよ、おめでたう

………
するさ、そこへ、お猿さんのお母さんが入つて來て、牛のお母さんに、

「さあ、すみませんが、そろそろ、ご馳走をはこんで下さいな。」と言ひました。牛のお母さんは、

「はい、はい。」と言つて、むかふのお室へ、きんぎんご馳走のお皿をはこびはじめました。

お客さまは、みんな、ひろいお室のまん中の、大きなテーブルに、ぐるりとお腰かけをならべて、坐つてゐます。その中に、子牛さんも、にこにこしながら坐つてゐましたから、牛のお母さんは、うれしくてなりません。牛のお母さんが、

お臺所へ歸つて、少し休まうさしてゐますよ。そこへお猿さんのお母さんが、あわてて入つて来て、「おやおや、まあ、私は、すっかり忘れてしまつたのですよ、うっかりして、いちごミルクを作る、ミルクを買ふのを忘れてしまつたのですよ。」と言ひました。するに、牛のお母さんは、にこにこして、

「はいはい、さうですか。それなら、これから、わたしが自分のお乳をしぼつて上げませう。私はお乳をしぼつてビンに入れて、お祝に持つて来ようと思つたのですけれど、お乳は、しぼり立てがよいと思ひましたから、わざとしぼらずに來ました。さあ何か、きれいな鉢をかして下さいな。」と言ひました。

お猿さんのお母さんは、ほつさして、大へんよろこびました。そして、すぐに、きれいな鉢を、戸棚の中から出しました。

牛のお母さんは、その鉢の中へ、自分のお乳から、まつ白なお乳を、ジュッジュッ、ぎつさりしぼつてくれました。それから、二人のお母さんは、お皿の中へいちごを入れたり、その上にお砂糖をかけたたり、今の牛のお乳をかけたたりして、いちごミルクを作りました。そして、二人で、お客

様の方へ、きんきんはこんで行きました。みんなは、大よろこびで、いちごミルクを食べはじめました。お猿さんが、大きな聲で言ひました。

「まあ、このいちごは、まつかだこ。まるで、鬼さんのお目々みたいね。」

するに牛牛さんが、びつくりしたやうに大きな聲で、「あッ、これ、お母さんのお乳だよ。」と言ひました。

さうするに、お猿さんのお母さんが、

「ええ、さうですよ。まあまあ、子牛さん、よくわかりましたこ。子牛さんのお母さんは、今日のお祝に、しぼり立てのこんなにおいしいお乳を、ぎつさり下さつたのですよ。」さう、言ひました。それを聞くに、食べてゐるいちご、ミルクが、また、一そうおいしくなるやうな氣がしました。それで、みんな、

「まあ、おいしいこ、まあ、おいしいこ。」と言つて、たくさん食べました。

では、これでお猿さんのお誕生日の話はこれまで。

入園當時の 躰について

まづ親しめ

お互に親しみを感じないでは教育は出来ない、親しみがあつてはじめて信頼が出来るのである、狭い家庭内にあつて親しい家族だけ生活して居た幼児が急に見も知らぬ幼稚園に来て生活するのであるから先生の方で餘程親しくしないさいやになるのは當然である。二人や三人の子供ならばすぐ親しむ事が出来るが、三十人も四十人も一時に入園した時にすぐに親しませようとしても無理な話であるが、親しんで貰はねばさんな苦心もさんな厚意も通らないのである。子供と親しむには子供の爲を思ふ純粹な誠心が第一である。技術ではない誠心が通じなければさんな方法を講じてもだめである。誠心があれば入園式の前に先づ次の事は用意せずには居られない筈である。即ち、

姓名を記憶して置く事、名を呼ばれると親しみを感ずるものである。入園式の前に記憶して置いて顔と對照して覚えてしまはねばならぬ。出席簿を見て名を呼ばれたのでは

有難くない。遅くとも三日目からは出席簿なしで名が呼ばれなければならぬ。

家庭の状況を調査し記憶して置く事。子供の経験は誠に狭い其家庭内の事に話題を求めねばならぬのである。兄弟の話殊に赤ちゃんの話をする子供は喜ぶのである。一人兒の人に兄さんの話なきをしたならば興が醒めるのである。

下駄箱、帽子かけ、整理戸棚の位置等をよく覚えて置いて登園の時親切に世話しなければならぬ。

子供の性質と親の心構へによつて、なつき易い子供となつき難い子供がある、なつき難い子供をこそなつかせなければならぬのであるが、大勢を一人で扱はねばならぬ園では一人にばかり手をかけるわけに行かぬ。誠心をつくして迎へても、親切の限りをつくしても親しめない子供さんは幼稚園生活が出来ない人であるからむしろ家庭で生活した方がよい。お互に苦勞しても徒勞に終る事がある。け

れどもあまり早く諦めてはならない。急には親しめず自然に静々近寄つて来る子供があるが此方が當然かと思ふ、あんなに苦勞しなくともよかつたに笑話の種子になる事が屢々ある、家庭も共力して本氣になれば親しめないといふ筈はないのである。

躑の内容

教育審議會で決定された幼稚園に關する要綱の第三項に「幼兒の保育に付ては其保健並に躑を重視し云々」があるが其内容は明記してない。幼稚園に於ける幼兒の生活は全部が躑であるといつてもよいのであるのに、躑といふに特に禮儀を正しくする事で表面に現はれた禮儀作法のみ解釋される嫌があるが、私共はそうは解釋したくない。從來も大に躑を重視して來たのであるが、知的方面のやうに效果がはつきり分りにくい爲めに充分注意しても外からは認められぬ事が多く、又保育者も當然の事として忘れられる事もないではない。其内容を分類して列記する事はむづかしい問題である。此所では入園當初特に注意すべき事だけを擧げるに留めて置く。

- 一、先生や友達に思ふ事を遠慮なく話す事。
- 一、友達と遊ぶ事——次第に共同生活にはいり得るやうに導く。

一、幼稚園の出入についての挨拶。

- 一、家庭に於ける挨拶。
- 一、便所に於ける作法。
- 一、鼻のかみ方。
- 一、食事についての作法。
- 一、遊具の使ひ方。

躑は常に

何事でも實行されなければ躑にならぬ、覺えただけでは躑にならぬ、そこがむづかしい處である。家庭の習慣は千差萬別といつてもよい位で躑方や家風が違つて居る、其異つた習慣に馴れた、氣質の違つた幼兒を一堂に集めて歩調を合せて生活させて行く事の困難さは想像以上である、しかも是等の事は實行して貰はねば秩序が保たれず納まりがつかないのである。はじめからキチンと整へる事を要求する事は出来ない、はじめから嚴格にキチンと躑けようと思つれば幼兒の貴い自發活動性を失ひ、表面はよい習慣がついたやうでも形式的に形が整つただけで眞の躑ではないといふ恐れがある。前述の諸項は入園の當時から必要であるから早く躑けねばならないのであるが、一旦躑けたか後は注意しないでよいといふのではない。躑は常に注意して行かねばならぬ。躑の内容を保育案の上に書き現はし難いのは其爲めである。例へば食事の作法にしても大勢が一緒に食べはじめるといふ事さへも大した仕事である、食

前食後の挨拶やうがひの仕方、左右の歯でよく噛む事等躰けねばならぬ事が多い、是等を何時躰けたらよいのか、常に躰けて行かねばならず常に注意して行かねばならぬ。之れで修了したさいふ事はないわけである、前にも記したやうに氣質が違ひ習慣が違つて居る幼児を一樣に見てはならぬ。個人々々について常に注意して行かねばならぬ。

入園當時の幼児を見るに十人十色皆變つて居る。同じ年齢なのにこんなにも違ふものか驚かされる。それが團體生活をして居る内に次第に近づいて来る。即ち弱い子供はだん／＼強くなり、強過ぎる子供は目立たなくなる。友達と遊べない子供も盛んに遊ぶやうになり、大人つぼく屁理窟ばかりいつてる子供も何時か子供らしい無邪氣な子供となり、我まゝな子供も角がミれて来るので修了近くなるミ其差は極めて小さくなるのである。之を見て或は型にはまつたミ評されるかも知れぬが實際はそうでない。差異は小さくなつたが其間に充分に個性を發揮して居るのである。しかし幼児の個性さいふものは餘程注意して觀察しないミ誤解し易いものださいふ事を忘れてはならない。人間の個性は複雑であるが或時には或一面きり現はれないものである。其一面だけを見て其人の個性ミ早合點するのは見る人の越權である。永く觀察して居ればかうした方面もあゝした方面もあるさいふ事が出来るが、一日／＼を別々に考へ

たならば、今日は大變從順であるかと思へば明白は極めて強情である。其翌日は又變つて居る、一體それが本質であるかミ疑はるゝ時があるのである。一時間や二時間、甚だしきは三分や五分の間答によりて人柄が分る筈がない、分るミ思ふのは分つた人の一人きめに過ぎないのである。此事は幼稚園の先生にはすぐに分つていたゞけるミ思ふ。

躰を見るための問答について

○「鼻が出た時にはさうしますか」紙を出してかんでごらんさない親の注意や日常の躰を見るには良い問ひ方である。處がさあ大變ポケットの無い洋服にエプロンをかかけさせないので紙の入れ場が無い、今日は親から放れないミ思つて子供に紙を持たせなかつた。子供は紙が無いのでモヂ／＼泣き出しさうになつた。親が答へては辨解になる。問はれた先生はさう判斷しさう採點されたのであらうか。

○「お菓子では何が好きですか」さいお尋ねになつたから「からいものが好き」さいいつたの、別の先生は羊羹ミ鹽せんべいさい出されたらさちらを食べますのさい御きゝになつたから私は羊羹さい御返事したの、之を知つたお母様は心配で堪らない、からいものが好きさいいつておいて羊羹が好きでは矛盾して居る、でたらめをいつたさいお取りになつたに相違ないさいいつて憂ひて居る、大人から見れば矛盾して居るが子供には甘

いもの、からいもの、こいふ概念的な言葉が分るであらうか、甘いものでも餡類は好きだが餡類は好かぬ子供もあれば、餡類が好き鹽せんが好き餡類は一切嫌ひこいふ子供もある。之はお話をする態度に重點を置かれるのか體質に重きを置くのか衛生に注意して居るかさうかを見るのかさう考へても見當がつかない。

○「お母様、先生が鉛筆トゴホンを持つていらつしやいとおつしやつたから向ふのお机に行つたら御本がないの、仕方がないので鉛筆を一本持つて來たの、そうしたら先生は五本ですよとおつしやつたから後四本持つて來ましたよ」エンピツトゴホンこいはれたのを聞き違へてエンピツトゴホンこ聞いたのに相違ない、トミチを聞き違へたばかりに五本ご御本を取り違つたのである。子供はさぞ不思議そうな顔をした事であらう。其態度は明朗さが缺けて居たに相違ない。檢定なさる先生はそこ迄氣がつかれたかさうか、知能指數百五十こいはれた子供だけに却て考へ過ぎたのかも知れない。

○甲「日本で一番偉い方はあなたかき聞かれたから僕天皇陛下きいつたよ、ネーお母さんさうでせう」乙「僕には人ではあなたが一番偉いかき御聞きになつたから、近衛さんきいつたよ」甲「ばかだなあ君、天皇陛下が一番お偉いんぢやないか」乙「だつて天皇陛下は人ぢやいらつしやらない

よ」甲「ぢや何んだい神様か」乙「神様は違ふけれど人とは違ふよ」

國民教育の上に大きな問題が投げられたやうな氣がする。

中には「一本足で一番偉い方はあなたかき聞かれたがわからないから黙つて居た」こいつて居た子供もあつた、一本日本ご聞き違へたのは何かの錯覺かも知れない。しかし初めて逢つて初めて聞く聲である、聞き違へのある事はむしろ當然である。まして聞いて下さる先生の中にはお國訛が交つて居ないごも限らない。黙つて居たからこて不忠の臣ご斷定する事は出来ない。

以上の例でも考へさせられるやうに疑ごいふ事は如何に書き現はしにくく如何に判斷しにくいか分るご思ふ。而して幼児の生活全部が疑ご見てもよいのであるから、幼稚園の生活についてはいひあらはし難く書きあらはし難いのは無理のない事である。

四月の幼稚園

幼稚園の終了式がすんで遊びなれた幼児達が去つた後の幼稚園の物淋しさはこの事に経験のある人のみが味ふのであるが、この寂漠の後には又新らしく来る小さい人たちを迎へる喜びもあるのである、うれしく楽しく新入園児を迎へるに、心もちの上の用意と共に、物的の設備の上にも細かい注意がほしいものである。

砂場の砂は充分であらうか、砂遊びの道具は不足ではなからうか。ブランコ、スベリ臺なご運道具の上にも心して手おちのない様に、又おまゝご道具の補ひ、その他のおもちやの事なご、新入幼児の遊び場所、遊び道具なごについて新學年の初めは殊更に注意して出来るだけ行届いたものとして用意しておきたいものである。

又外遊びの道具の用意の外に繪本や、積木、粘土、色紙なごの室内遊びの材料なごも豊富に準備しておいて、幼児たちを喜ばせたい。

及川ふみ

新入幼児は、入園當初は自分たちの面白い遊び場所である事はわかりながらも何ごなく不安な心持も多少あるやうである。これはもつごもな事で今までごは、ちがつた大勢のお友達ご遊び、なじみのない保姆さん方ご遊ぶのであるから自然のごごである。

こんな時に我々の幼児の保育の第一歩は先づ幼児に親しくなるごいふ事である。入園當初は、數日は専ら幼児に親しくなる事で盡きてよい。毎日くの保育案もこれをめやすごして、たてる事である。系統的保育案にのせられてる生活訓練も、課程保育案も親しみのうちに實行してゆきたいものである。

ごごに生活訓練は親しみあつてこそ真にその目的が達せられるので、朝登園の時の挨拶もまたお歸りの時の挨拶もお互に形式ばらずに自然の状態で出来てほしいものである。親しみが出来てくれば幼稚園内のお友達同志の禮儀作

法なぎこいふ事なぎも小さいながらも自然こ出来て来るものである。

以上の様なここから四月新入兒に對する保育案こいふのを立案して見たい。

第一週 四月五—六日

金 第一日の朝は三々五々ばらばらに幼兒たちは保護者に連れられて来るのであるから、保育室の中には幼兒たちの遊び道具や繪本なぎを用意しておいて自由に遊ばせておく。大體出揃つた頃に先輩年長組の幼兒の集つてゐる遊戯室に入つて形ばかりの入園式をする。

この時年長組の幼兒たちはラヂオなぎにて新人の幼兒たちも聞き覚えのある唱歌なぎ二三歌つて歓迎の意をあらはすこよい。

式は簡單に終るので各自保育室に歸つて定められた席につく。早く親しくするためにはその幼兒の名前を覺える事が第一である。一人く名前を呼んで出席をさる。第一日はこれで終りこする。

土 午前九時—午前十一時

遊び道具を備へておいて自由に遊ばせておく。名前を呼び出席をこつて後、各自の帽子掛、靴箱、道具の引出なぎの場所を覺えさせる。

これは毎日幼兒たちの生活に是非必要なここであるから

第二日目にしておく。

年長組の遊戯を見る、始めてであつてもスキップなぎ出来るものはさせる。

砂場へ出て皆こ一緒にしばらく遊ぶ。

第二週 四月八日—四月十三日

月 第一日

お話 猫のお見舞

お砂場遊び お山つくり

自由遊び ぶらんこ

火 第二日

年長組の遊戯を見る スキップ

唱歌 チューリップ

自由遊び 砂場 おにごっこ おまごっこ

水 第三日

自由畫 自由畫帖にクレヨンにて

人形芝居 猫のお見舞

自由遊び

木 第四日

お話 大きな球のはなし

遊戯 行進 蝶々 駒鳥

自由遊び

金 第五日

砂場遊び お船づくり

おまへごころ

土 第六日

唱 歌 チューリップ

つなぎもの 櫻の花に麥わら 絲に通す

第三週 四月十五日—四月二十日

月 この日よりお辨當始る。

午前九時—午後一時

唱歌 ままごころ

粘土 でんくゝ蟲 土筆

ラデオ體操

火 人形芝居 舌切雀

スリエ ヒヨコ

水 唱歌遊戯 ままごころ 蝶々

切紙 蝶々

ラデオ 幼児の時間 童話をきく

木 お話 富子さんの風船

スリエ 風船

金 唱歌遊戯 兵隊さん 猫の子

自由畫

土 砂場遊び お山作り

おまへごころ

第四週 四月二十二日—四月二十七日

月 お話 かたつむり

自由畫

火 唱歌 君が代

スリエ 日の丸の旗

水 ラデオ 幼児の時間童話

粘土 自由製作

木 お話 靖國神社

唱歌遊戯 鯉のぼり

金 園内散歩 摘草

土 紙仕事 國旗づくり

第五週 四月二十九日—三十日

月 天長節祝賀式

火 靖國神社例祭

四月

こいふ月は

泣いたり

笑つたり

怒つたり

十文字高女附屬幼稚園

留岡よし子

時 四月の半頃より末頃まで

所 日本國中どころく

第一景 BA 新任保母
新任保母

A あら何處へいらしたかと思つたらこ
んな所で……朝からどうなすつたのよ

B ……

A どうなすつたの泣いたりして

B だつて○子さんたら先生は新米さん
なんでせう……つていふんですものくやし

くつて……

A まあ新米さんですつて……

B え、どうして？つてきいたら、「うち
のお母様が仰有つたのピアノを間違へて許
りあるつて……」

A 仕方がないわ誰だつてはじめはそう
よ、練習の時はちやんと弾けても皆が見て
ゐるとねえ……

B 私今日弾くのがこわくつて……いや
なのよ

A それちやあなた何時まで経つても度
胸が出来ないわ、そんなに氣が弱くては駄
目よ

B え、ピアノは昨日遅くまでまた練習
してから大概大丈夫だと思ふんですけれ
ど、昨日△△さんと××さんが打つかつて
コブが出来たでせう。△△さんのお母様つ
てこわさうな方だから怒られやしないかと
思つて……

A 仕方がないわ出會頭のことですも
の、すぐ手當してお手紙持たせて上げたの
でせう、大丈夫よ、さあだん／＼お子さん
が来るわ、あつちへゆきませう。

B ……

A まだ何か心配？

B あの○子さんが新米さんはちつとも
お掃除しないつてお母様が仰有つたの……
つていふの

A あ、昨日でせう、あなたがお庭の方
を掃いてゐるのを知らないからよ……何に
も解らないくせに一寸見た自分勝手の評
なんか氣にすることはないわ、確りなさい
よ、……自分で一生懸命にしてゐればそれ
でいゝぢやないの、たゞね、○子さんは自
分の先生の事をいはれたのが子供心に氣に
なつて心配してゐるのよ、その氣持を汲ん
で適當に返事して上げた方がいゝのね、さ
あ元氣を出して遊びませう……

第二景 BA 主任保母
主任保母

A おや何かうれしさうね

B ホ、……だつてあの赤い洋服の女の
子、背の高い女中さんがお迎へに来るお子
さんたら、お姉ちゃん／＼つていふんです
もの、思ひ出して……

A ○子さんでせう、私のことは小母ち
やんよ、當分いゝでせう、お姉ちゃんぢや
ありません先生ですよ、なんていはないで

ね あの上履に皆お名前が書いてありますから、チラつと讀んでから、○子さんついでいふ様にお名前を呼んで上げて頂戴

B はあ……先生それからさつき、とても笑つてしまひましたの

A 結構ね、笑ふ門には福来るつて……
どんな事でしたの

B 昨日△雄さんが寄道をしたから注意して下さいつて、今朝お母様が仰有つたのでお歸りに、

(皆さん) マツスケに歸らなければいけませんよ)

つて申しましたの、そしたら○子さんたら、(あらいやだ私の家曲らなければ歸れやしないわ)

つていふんですもの

A ホ、まさに笑話ね入選するわ、でも笑ひ話として聞流してはしまへない事ね、子供には全く云ひ方が大切よ、それとこれとは違ひますけれどね雨上りの日など、悪い道を通るんぢやありませんよ、といつては駄目なのよ、悪い道といふ事がピンと頭に來て悪い道を探して歩く様な子もあるの、悪い道には觸れないで、皆さんい、道

を歩いて歸りませうね、い、道許りよつて歩ませう……といふ工合にい、道を印象づけた方がい、様ですよ

B まあ六ヶしいものですわね、あの先生今日はお母様がお病氣なので少し早く歸らせて頂きたいのですけれど

A 御病氣？それはいけませんね、お風邪？そう……あの何ね「お母様」つて仰有つても悪いといふわけではありませんけれどもう、先生つていはれる様におなりになつた人ですからやつぱり「母が」つて仰有つた方がい、でせう

B ……先生それがながいへないんですの、實習の時にもいはれたのですけれど

A そうね、はじめは一寸云ひ難いものですけれど何時から變へるかつていへば丁度い、時期ではありません？ついでにいやなことをいふ様ですけれど今日のお晝に熱いおやかんを机にデカにお置きになつたでせう、私すぐ下したのですが少し跡がついた様ですよ、「先生」となるど萬事一人前にならなければならぬのね世間もその眼で見ますしね、この間お客様のお歸りの時あ

なたがオーバーを着せかけてお上げになつたでせう、あ、いふことは大變氣がついて結構だと思つてましたの、何かの御縁で一緒に働くことになつたのですから、年寄役に何でも氣のついたことは申しますよ、お嫁にいつてお姑さんにははれない様にね、ちやお母様お大切に……

第三景 低級附添 高級附添

A あんたんちぢや先生に何かやつたの
B どうして？

A だつてあんたちの子許り可愛がつて
るぢやないの、うちの坊やなんか一邊も抱いた事ないわ

B それはお宅の坊ちやんは元氣よく遊んでいらつしやるし、うちのお嬢さんは泣
蟲ではにかみやさんだからよ

A そうかしら、あんたどの先生が好
き？

B みんな親切ない、先生ぢやないの
A あの背の高い先生は、はじまつてか
らずつと同じ洋服だね、一つしかないので
しら、小さい先生は三邊取換へて來たよ、
おしやれだわ

B まあよく氣をつけてるのね

A おしやれの先生ね、もうせん△△さんの坊やが休んだら、早く来い〜つて手紙をよこすんだつて、生徒が減つてクビになると大變だからだらう。

B まさか、そりや休めば心配して下さるんでせう

A 大きい方がおじぎは叮嚀だけれぞ一寸生意氣だよ、この間お部屋で繪本を見てゐたら出ろつて怒つてんのさ

B だつて「お附添の方はお部屋へ入らないで下さい」つて書いてあるぢやないの

A でも小さい先生はだまつても、いへないんだね

(洩れ聞いて怒るのは精力の消費に過ぎません)

第四景

BA 保母

A 1 先生お辯當は何時からでございますか

B ○日からでございます

あの昨日差上げました刷物に書いてございますが

A 2 先生お辯當は何に入れてまゐつた

らよろしうございませうか

B 本年はバスケットでもランドセルでも袋でも何でもよろしいのでございます

あの昨日差上げました刷物に書いてございますが

A 3 先生お湯呑はどんなのがよろしいのでございませうか

B なるべく落しても割れません様に、アルマイトのでもアルミニウムのもも、

そしてお名前をつけて頂きたいのでございます

あの昨日差上げました刷物に書いてございますが

A 4 先生お盆はどんなのがよろしうございませうか

B 重ねますから丸いのをお持たせ願ひたいと存じます

あの昨日差上げました刷物に書いてございますが……

A 5 先生、お辯當箱はどんなのがよろしうございませう

B 何でもよろしいのでございますが冬になりますと暖めますので新しくお求めになるのでしたらアルミかアルマイトの様な

塗物でないのがよろしいのでございます

あの昨日差上げました刷物に詳しく書いてございますが

A 6 先生窗アランは何がよろしいのでございませう

B きめては居りませんが消毒致します懸けて置くのに都合のよい様に柄がセルロイドでなく穴の開いてゐる角の方がよいと思ひます

あの昨日差上げました刷物に詳しく書いてございますが

………

獨白

B あゝお母さん方は小学校を出てゐるんぢやないのかしら…… (をばり)

四月の家庭蔬菜園

大金岩大

ほかノミ暖かい日ざしを受けて冬中なほざり勝な畑の草が我顔に茂るやうになりました。

今年こそは雑草は見つかり次第抜き取つて實を結ばせないやうに又早く夫々の播付、植付なごを致しませう。既に誌上に述べました感のしないでもありませんが請はれますまゝに左に記述致します。

今回は自分の狭い貧弱な家庭生活に於て日常手近に作つておきたい蔬菜即ち新鮮なこも、一時の使用量少量で時々需用のあるものこ、比較的土質を選ばないもの、管理の容易なもので女子供の栽培にも適するやうなものを數種類に就て記することに致します。

(一) チシヤ

チシヤには玉チシヤ、立チシヤ、搔チシヤがありますが最も

多く用ひられますのは玉チシヤでありますからこの度は是を播くことにしませう。

種類は春播にありましてはビッグゴボストン種、エキジツトカールド種がよろしうございます。

種子を床又は鉢(箱)でも結構に播種する時は十日内外で發芽しますからこの時あまり込み合つて出た場合には二種内外に間引更に本葉が四五枚出ました時に定植します。定植にも苗床同様の床を作り基肥として二米平方につき堆肥二十疋、油粕七百五十瓦、木灰五百五十瓦位を鋤き込み後地均しをして是に苗を株間二十糎を置いて植込みます。定植當時乾燥の心配のある所は株間に敷藁をし或は灌水に注意して濕氣を保たせる事につこめませう。チシヤは元來冷凌な氣候を好むものでありますから春夏の栽培には品種の選擇は勿論でありますが発芽後の管理も出来る丈充分にして休みなく發育させ完全な結球をさせるやうにつこめなければなりません。

補肥としては活着後十日に一回位宛油粕の腐汁、或は硫酸アンモニヤ、又は智利硝石を水十八立につき五百五十瓦の割合に溶かしたものを施します。時局柄かゝる肥料は得難くはありませうがチシヤのやうな生食用類にはなるべく下肥はさけた方が安全であります。かやうにして播種後六七十日すれば結球しますから充分にかたまつた所で抽臺しない

うちに順次收穫致します。

(二) パセリ

是は家庭栽培としては大抵二三本あれば充分だと思ひますが縮れた葉の繁茂した状態は外觀もよろしいので少し多く播種しておきませう。

種子の發芽には相當日數を要し十日以上かゝります。尙乾燥してゐるやうな時には應々發芽をあやまることさへありませんが一度發芽すれば後は栽培容易でありまして次のやうな注意に依ればよいのであります。

1、根は支根が少ないためなるべく早く定植すること。

2、春播は生育期が夏にかゝるによりあまり日當の強くない所に定植すること。

3、定植當時灌水に注意すること。

肥料としては定植後時々根本に薄い液肥を施せばよいのであります。パセリも前同様生食する事もありますがチシヤよりも丈が高くなりますので注意すれば葉にかけずすみすから下肥を使用して差支へありません。

收穫は七月頃から秋まで續けられ尙冬にも收穫を望む場合には簡單な霜除をしてやることよいのであります。

次には直播してよいものうちに比較的日蔭地にも育つものをあげませう。

(三) 紫 蘇

普通栽培せられて居ります種類は二通であります。

1、縮緬種

莖葉共に紅紫色をして居り漬物用即ち梅干、生姜、チヨロギなごの著色用として、又芽紫蘇として用ひられます。

ロ、綠縮緬

莖葉共に鮮綠色を呈し香氣が強いのであります。紫蘇巻用なごに適します。

紫蘇の種子の外皮は大變硬いので一度乾燥しますとなかなか發芽し難くなりまして春四月でも二三週間位の時日を要する事がありますが性質は極めて丈夫でありますからいづれの土質にもよく生育致します。それ故蔬菜園の壁、垣根等の近くで日照のあまりよくない又土壤もさほご肥沃でないやうな場所にも栽植出來ますものでありますから數本育てておけば重寶であります。又一年播種しますれば次年からは自然に落ちた種子が何處かに發芽しますからそれを適當な場所に移植すればよいのであります。

(四) 茗 荷

半日蔭の地を好む蔬菜でありますから畑の一隅又は木の下なごを利用してこの際古い地下莖を取り除き一株に二三芽をつけて植付けておきませう。

次には生育極めて旺盛な葉菜類をあげます。

(五) ツルナ

各地の海岸に自生さへして居りますもので蔬菜としてさほご注目されて居りませんが最近ではラヂオなごでもその效用を放送して盛んにその栽培を進め市場にもかなり出るやうになりました。しかしこんな栽培の雑作ないものがこれ程迄に思はれるばかりの直段をもつて居ります。今年は是非各御家庭で作つて戴きませう。

種子は蒔草の種子を大きくしたやうな角ばつた相當大粒なものでありますから子供にも容易に播種させられれます。

土地は日照のよい肥沃な所であれば是にこした事はありませんがたごへ日蔭でありますも少々瘠地でありませうごもかまひません。畦作りにします時は一米畦にして株間六十糎おきに二三粒宛を播き下します。十日前後で發芽し始めのうちには目立つ程の生育振も見ませんがかなりの大きさに達しますごそれらは大へんな勢で株を張り側芽を次から次へご伸ばして行きます。時々薄い下肥をかけてやればよいのであります後には空間なく茂り之さへも出来なくなります。

注意として苗を移植するやうな場合には根に支根が少ないためなるべく小さい時に行ふごであります。

收穫は六月頃から秋まで引續き行はれます。摘み取り方としては指で折れる程度の所でしたならば莖毎食べられま

すから芽先からその邊までの枝を摘み取りますれば残されました部分の側芽が又さくく伸びて行きます。效能としては胃腸の薬ごか聞いて居ります。茹でてしたし物、煮付、お汁の實なご結構であります。

種子は澤山に落ちますから次年からは新に播く必要はありません。

その外土地がありません。

(二)菜 豆

矮性種のロングフェロー、マックバイ等がよろしいと思ひます。支柱の材料も手間も省けます。

是は播種後六七十日で收穫の出来ます發育の早い蔬菜であります。四月以後年内に三回位順次に播種しますれば長期にわたつて收穫する事が出来ますが連作はさけて次々ご場所を變へ二三年休作する事が必要であります。

(七)枝 豆

種類には早生枝豆、東京早生なごがありまして後者は多く東京近在で作られて居ります。

基肥として草木灰、米糠等を少々入れて畦幅六十糎に株間、二十五糎位にして一株の植穴に二三粒宛播きます。後追肥を二回、除草、中耕を行へばそれで充分であります。もし莖葉が徒長するやうでありますれば莖の先端を摘んで成長を抑制してやる必要があります。

收穫は六月の中旬から出來ます。

(八)馬鈴薯

關東地方の普通の植付時は三月上中旬であります。四月に入つてからでも差支へはありません。七月頃の薯堀りは子供ばかりではなく大人でもたのしいものであります。

お約束の頁數を越えましたので左に栽培法を略記致します。

- 1、種薯は七十瓦位のもの縦に二つ切にしてその斷面に灰を塗つて防腐する。あまり大きいのも小さがるのもよくない。芽は伸びてゐないものの方がよい。
- 2、切つた薯はなるべく早く植付けること。
- 3、基肥として堆肥、米糠、灰等を入れておけば一層よい。
- 4、畦幅六十糎株間四十五糎位にする。
- 5、薯は切口を下に向け肥料には直接觸れぬやうに土を覆ふた上におくこと。薯の上の覆土は十糎内外にする。
- 6、發芽したら稀い液肥をやる。
- 7、芽が十糎内外に伸びた時一株から數本出てゐるやうであればその中丈夫なもの一二本を残して他は根本から取り除く。
- 8、成長と共に地下に薯が出來て來るから常に是が地上

に露出せぬやう中耕、除草をあはせて土寄を怠らぬやうにする。

9、薯が出來たらなるべく早く摘み取ること。

10、追肥をこの間一二回すれば尙結構である。

11、七月上中旬になり地に少し割目が出來かけるまで收穫によい時期であるから掘り上げる。

12、病害豫防として五月中旬から三四回ボルドー液の撒布をする。

(九)ヘチマ、レイシ

日蔭棚用として播種しておきませう。もう四月になつてからは苗床に播く必要なく適當な場所に直播してもよいのであります。ヘチマは後纖維を使用するために細長い種類よりも太くなる方をえらんだ方がよいと思ひます。

「空地を生かして綠地させよ」と叫ばれてゐる現在の時勢に、少しの土地をも無駄にしておかず、何なりと植ゑて利用するやうに致したいものも切望して止みません。

月刊「幼児の母」に就て

— 御賛同を御利用を乞ふ —

日本幼稚園協會 倉 橋 惣 三

幼稚園が幼児への直接の保育を任務とすると共に、母の教育者、家庭教育の指導機關としての使命をもつべきものであることは、申すまでもありません。そのためにはいろいろの方法もあり、現に皆さまも、いろいろのお力を注いでおられること、信じます。月刊「幼児の母」は、その小さき一助ともなり度く、皆さまに利用して頂き度くて、生れ出たものです。

一應は「幼児の教育」の頁内に掲載しますが、これを御覽下さつて、御注文いたゞきたいのです。するに、本會はその部數通り實費を以てお送りします。それは可愛らしい四頁の母の新聞といった獨立の形になつて、お手許へ参ります。そして、お手許から母達の手に渡るのです。世には、母のための読みものもいろいろありますが、幼児の母といふ特定の意味をもつものとして、更に、それが、我子の幼稚園から配ばられるのですから、母の特別の注意をひくことを疑ひません。その上、立読みしてもすぐ読み切れる四頁です。忙しいお母さん方にも親しみ迎へて貰へるでせうと思ひます。

〇月刊「幼児の母」頒布規定

- 一、毎月の註文を切を十日とします。
 - 二、部數と送り先きを明記して、代金と共に御註文下さい。尙「幼児の母」代金なる事を必ず御附記下さい。振替で御送金の方は着迄に比較的多くの日數を要しますからお急ぎの時は爲替の方が便利です。
 - 三、二十日以前に發送します。
 - 四、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。
 - 〇十部 金貳拾錢
 - 〇送料 十部まで三錢、二十部以上送料不要
 - 五、一ヶ年乃至數ヶ月分を豫約御註文を希望いたします。
 - 六、一月號は四千餘部、二月號は六千餘部の御註文を得ました、御賛同を感謝してゐます。三月號は幼稚園の必要の宣傳を中心として編輯しました。特に御利用願ひます。
 - 七、更に共だ立入つたこと、やうですが、御利用の仕組について念のため附記して置きます。(イ)幼稚園が保護者に無料配布する場合。(ロ)實費を保護者の銘々の負擔とする場合。(ハ)幼稚園内保護者會或は母の會等が費用を負擔する場合。などそれら御便宜次第であり得ませう。
- 「幼児の母」の第一の主旨は、現に幼稚園にある幼児の家庭教育に貢獻したいのでありますが、或は之れを以て、幼稚園外の家庭に廣く働きかけて、幼児期教育の重要性を宣布し、ひいては、正しき意味での幼稚園の宣傳にも用ゐられ得るを考へます。

幼児の 母



昭和十五年

四月

わが子の通園

——幼稚園保護者心得帖——

倉橋惣三

幼稚園の方では、先生方は一生懸命。少しの手おちもないやうに保育して下さい。そこで、家庭の方では、全く安心してお願ひする譯であるが、だからといって、任せつきりでいゝといふ譯はありませんね、厄介坊やを、人さまにお世話願ふのですもの、義理からいつたつて、任せつきりなんていふことは出来ません。が、こゝでいふのは義理づくなんかのことではない。家庭の心得次第で、わが子の幼

稚園教育が、一層よくなるかどうかの、實際問題です。なかには、幼稚園に通はせて置きさへすればいゝと、氣樂に構えてゐる家がありますが、なんといふ無責任のことでせう。又、わが子のために、どんなにか損のことでせう。

先づ第一に大切なことは、家庭が、幼児といつしよに、その幼稚園通ひを楽しんでやることです。全く、幼児は幼稚園

母のこよみ

外へ。外へ。外へ。

春の野は美しく待つてゐます。なにも大した名所でなくていい。麥青く、菜の花黄に、蝶の舞ふ野路を、ぶらり〜と歩くだけでいい。但し、子どもは、ぶらりぶらりなんか歩いてはゐない。聲を立てて走り出す。もうそこは廣い春の野であり、春の河原であり、春の砂濱である。何をして遊ばう。心配することはない。子どもが先きに立つて、いろ〜の遊びをして呉れる。たゞ何も彼も忘れて、子どもになつて遊べばいい。おなかとすく。お辨當は手づくり。おいしい〜。

一日で、子どもの顔が、いゝ色になつて、氣のせいか目の色も鮮かになる。子どもを丈夫にするのは、かうさへすればいい。日光と空氣と運動と。即ち戶外。

な心から楽しんでゐるのですからね。親も、それと同じ心持ちに、毎日、なつてゐてやらなければなりません。ところが、幼稚園に入れて、いゝ子にしようとは考へても、どんなに楽しいものかを、いつしよに思つてやらない親が少くないのです。朝にしても、「さあさ、早くゆけゆけ、遅れると先生に叱られるぞ。先生に叱られたつてこわくはないかも知れないが、一つでも多く習つて来ないと將來のために損だぞ、保育料を出してらんぢやないか。……まさか、こんな亂暴な下品なことをいふ人もありますまいが、幼稚園面白いでせうね。かあさんも行つていつしよに遊びたい。けふは、何して遊ぶのでせう。〇〇先生が待つて、下さるでせうね。〇〇ちゃんも、〇〇ちゃんもね。」斯う言つてほしいものです。但し、口ではかり優しく言つても、お辨當の用意がおくれたり、靴がよこれたまゝ、だつたり、お手拭がとりかへなかつたり、それぢやあ、楽しく出られようもあませんね。幼稚園で先生が、あんなによく氣を入れて

迎へて下さるのですから、家庭でも、よく氣を入れて送り出してやらなければなりませんまい。それでこそ、わが子は一段と楽しく幼稚園へ行けるのです。

二

子どもは、幼稚園にゐる間は、何も彼も忘れて幼稚園を楽しんでゐます。さて、お歸りとなると、家が楽しみで楽しみでならないのです。あたりまへのことですが、どんなにか楽しみにして我家へこそは歸ることとせう。家庭——おかあさんはそれを、充分心を入れて迎へて下さらなければなりません。子どもが歸つた時いつも留守だつたりしたら、子どもはさぞかし、つまらないでせうね。業務で忙しいお母さんなら宛に角く、一般として、午後の一と時位、どうにも都合が出来ませう。ところで、待ち迎へるからといつて、親が玄關に三ツ指ついで、坊やさまのお歸り—とお出迎へ申すこともありませう。又、西洋のママさんを眞似て、抱きかゝへて頬べたをチュツチュツと、なめまわすこともありませう。それよ

季節の御辨當

榮養研究所 佐々木理喜子

① 御握り

材料 鯖四〇瓦 人參一五瓦 奈良漬
少々 茨朮豆三〇瓦 油四瓦
淺草海苔適量 以上で蛋白質
八・一瓦、溫量一〇〇カロリー

調理法

之はピクニツクにも向く御握りで、御飯に材料を混ぜ、外側を海苔で包んでシユウマイ式に作り食へる時にポロポロしない様に工夫致したものです。お魚は鯖でも鱈でも有合せでソボロを作り、此の中に人參の生を却して混ぜ合せ、油で炒つて、砂糖、鹽、醬油等で普通に味付けます。奈良漬も細くミジンに刻みませう。茨朮豆は青茹にして斜に程よく刻み、砂糖、鹽で味付けます。御飯の中に以上の材料を全部加へ一人分五個位に握ります。淺草海苔は焙り一枚を四切にして、お握も一つ宛に包み、シユウマイの様にしておから少し申をのぞかせます。青味

り、元氣のいゝ聲で、にこやかな顔で迎へてやればいゝのですが、忘れてならないことは、おやつを用意しておいてやることです。但し、先づ手を洗はせ、口をうがひさせ、それからゆつくり、そのおやつをいよいよに楽しむのですが、さて、その後で、「けふは何を習つたの。何を覚えて来たの。さあさ、おさらへししてお見せなさい。一日の間にどんなに賢い子に飛躍したでせうね。……」といった調子の教育的訊問は禁物です。子どもの方から話し出す其の日の幼稚園生活の楽しさを、そうお、おもしろかつたのね。そうお、ホ、ホ、ホ、そうお、ホ、ホ、ホ、そうお、ホ、ホ、ホ、で澤山です。

三

それから夕御飯が済んで、また一と時楽しい時間がつゞくでせうが、どんな面白いことがあらうと、子どもは夜更かしは、最大の嚴禁。殊に、入園當初には子どもも疲れの多いことですから、出来るだけ早く寝るようにしなければなりません。ことによると、はしやいで寝ないこ

とがあるかも知れませんが、それは疲勞の結果の興奮で、さういふ時こそ、よく寝かさなければなりません。隣の部屋で高話もやめ、ラヂオは勿論低くして、よく熟睡出来るやうにしてやらなければなりません。この充分な睡眠こそ、あしたの幼稚園生活を、ほんとうに、充分活氣あるものにするかどうかの分れみちです。子どもよりと、氣力のないやうな睡眠不足で、みんなとよく遊べるものです。先生の面白いお話だつて、ほんとうに面白く感じられるのですか。それに、前夜よく眠れば、翌朝は早く起きられ、遅刻といふことは、甚だよくないことですからぬ。

さて、明るく夜があけて、晴やかな朝が来る。毎日々々、わが子の幸福な幼稚園生活がつゞくのです。そして、一日一日と、その元氣が増えて来る通園の姿こそは、母にとつて、何んといふ嬉しいこととせう。「行つてまゐります。」「その聲も一日々々としつかりした強いものになります。

を上に少々おのせると美しくなります。

② 豚肉と野菜の煮付

豚肉三五瓦 キヤベツ三〇瓦
人參一〇瓦 片粟粉少々 さつまいも四〇瓦 以上で蛋白質八・四瓦 温量一〇七カロリー

調理法

豚肉は細く織切りに一寸炒めます。キヤベツと人參は長さ一寸位の織切にしまして軟く煮て、砂糖、鹽、醬油で味付け、此の中に豚肉を加へてよく煮ます。少々片粟粉を水溶して入れ全體がバラバラにならぬ様に致します。さつま芋は、皮のきかない所を取り幅三分位の程よい柏子木に切り少量の酢を加へた水で軟く煮て砂糖と鹽で味付けます。此れは附合せと致します。

③

メザン 稻荷まき
メザシ三〇瓦 人參二〇瓦 もやし二〇瓦 油揚一五瓦(半枚)
以上で蛋白質八五瓦 温量九六カロリー

調理法

メザシは頭と臟物を取り、織切りの人參、もやしと一緒に一枚にひろげた油揚で海苔巻の様に巻き、小揚子で留めます。充分に煮込み普通に味付け、揚子を抜き適當に輪切ります。鹽辛いメザシがありますから、御注意下さい。

簡單テスト

愛育研究所 森 脇 要

母「ね、二郎さん、今日はお母様とお話をしませう。あのね、若し貴方が人のものを毀したら、貴方はどうしますか」

子「僕毀さないよ」

母「そうですね、二郎さんはお利口だから、人のものは毀しませんね、でもね、若しも毀した場合は貴方はどうするの」

子「怒つちやふの」

母「あら、二郎さんが怒つちやふの」

子「違ふよ、その僕が玩具を毀した人」

母「そうですね、玩具を毀された方が怒りますね、でも二郎さんはどうします」

子「僕、僕ちあ又作つてあげる」

母「そうですね、作つてあげてもいいですね、でもそんな時には御免なさいつて言ふでせう。ちあね、若し貴方が幼稚園へ行く途中で遅れるかも知れないと気が

ついた時にはどうしますか」

子「僕行かないや、歸つちやふの」

母「そう、歸つちやふの、でもそうすると幼稚園はお休みになつちやつて、先生とお話やお遊戯が出来ないでせう。」

子「うん、わかつたよお母さん、大急ぎで、かけ出して行くの」

母「そう、二郎さんはお利口ね、ちあね、若しも貴方がよそへ出る時、雨が降つてゐたら、どうしますか」

子「かっぱを着て行くの」

母「そう、二郎さんは幼稚園へ行く様になつて、すつかりお利口になりました」

満六歳になりますと、大抵の子供は是等の間に正しく答へられる筈です。貴方の御子様は何とお答になるでせうか。

母の讀みもの

石森延男氏著

「幼な子へのお話」

これは石森氏の近著です。母のためにと添へ書きしてあります。たゞのお話集ではありません。母が自分で新らしいお話をつくつて、それをわが子に話してやることを勧めてゐる、新らしい意見の本です。そして、そのつくり方が、美しい例といつしよに、丁寧に説いてあります。又、お話をするに就て、よく考へてゐなければならぬ導きが、いろ／＼擧げてあります。かういふ本こそ、ほんとうに母の爲になる本です。そして、お話のことに就てばかりでなく、母としての我子への接し方といふものが、誰れでも考へずにもられなくなる本です。挿繪も美しく高尚です。是非皆さんの一讀をおすすめます。(東京神田神保町三丁目一九 横山書店發行。定價一圓六十錢。送料十錢)

母の受難時代

「幼時の追憶」、その六

曾 根 保

村を去る母

私達一家が東京に移らなければならなかつた理由は今でも私には明かでない。母の在世中、一度その譯をきいたことがあつたが、母は、不可解な微笑をたゞ、「お前達に學問をさせてあげたかつたのよ」さたゞ一言答へられたに過ぎなかつた。しかし、男の子四人に學問をさせるに十分な資産があつた譯でもなし、また東京に頼るべき人も、事實無かつたのであるから、考へてみるに、母の上京は寧ろ冒險と言ふべきであつたやうに思はれる。父の歿後、遺産を巡つてかなり厄介な問題が、親戚間にあつたらしいから、學者の家に育ち、極めてあつさりした母の性質としては、金錢問題のいざこざで心を悩ますことを極度に嫌ひ、村に居住するにすれば、いつまでもその患ひから脱することが出来ぬとみて、終に意を決せられたものであらう。尤も、曩

に述べた簡野道明氏の聲援と言つたやうなものもあつたに違ひない。また、上京後も、すべてが順調に行きさへすればその「冒險」も冒險ではなかつたかもしれない。しかし、この時、人生の嵐は特に凄じく、何の容赦も無く、か弱い母を叩きつけた。すべては覺悟の前であつたにしても、運命は今少し憐憫の手をさしのべてもよささうに思はれた。まだ四十歳には間のある若い女性が、住み馴れた土地に別を告げて出て來る時の氣持、否、愈々家を後にするその日までの日夜の苦しみ、家財の整理、荷造りの忙しさ、さびしさ、そしてまるでお祭にでも行くやうに嬉々としてその周圍を駆け廻る子供を相手に、温い心で、温い手で、手傳ふものにては、永年使つた下男下女の外に一人も無い冷い家に溜息をついて佇む母、その胸の中、私には今それがひしひしと感じられる。たゞへ義弟の心の卑しさに、愛想をつかし

て村を飛出すにしても、家そのものに對する愛著だけでも大變なものではなかつたか。物心ついて二三年しか住んでゐない私でさへも、生れた家に對する一種の神秘的魅力を感じるのであるから、長い間自分の物とし、一體になつて生存した家は、臺所にしろ、椽にしろ、たゞへ一本の柱にしろ、それはたゞの物體ではなかつたであらう。特に、五人の男の兒をあげた、その家を去るには、思ひ切れないものがあつたに違ひない。そして、その後いつまでも、あの部屋、この部屋、或は又庭の一本の立木でさへも、夢また現に姿を現はして母の胸を痛めたことであらう。今の私自身は浮草のやうな生活をしてゐるために、家に對する眞の愛著さといふやうなものを持つてゐないけれども、そしてそれが現今の都會人共通の氣持であらうと思はれるけれども、家、屋敷にもやはり、それぞれのスピリットが存して、そこに生をうけた人々を密接な關係をいつまでも保持してゐるやうに私には思はれてならない。母も、必ずや船の中、汽車の中、東京に著いてからも、古い家屋敷のスピリットに惱まされて、ハット氣がつくさ、既に身は三百里の外に在るのを知り、限りないさびしさを味はれたことと察する。語り合はふにも、これもこれも、年のいかなない子供ばかりなのだ。

東大久保に住む

瀬戸内海に夜は明けたが、私達の船はたゞ一筋に東へ東へ進んだのである。名に高い内海の美しさを知つたのはずつと後年のこと、この時の想出は、久しぶりに會つた鼎兄と、ひまさへあれば喧嘩をしてゐたことである。母は船には弱いまゝ見えて、金盃を側に備へてゐられた。毛布と枕、特に船の枕の珍らしさ。救命袋も飾つてあつたが、その二等船室は艙にあつたために、スクリュウの音がよく聞え、船の動揺も烈しかつた。小さい窓から青い海を覗いてゐるのが何より樂しかつたのを覚えてゐる。兄が覗いてゐる方、ゐる方へ、おしかけて行つて、そこから覗かなくては承知が出来ず、「兄さんばかり見て、ウチに見せてくれん」と駄々を捏ねたものである。そして、果は喧嘩となり、私は泣き叫びながら船室を處狭しとおつかけるのである。「鼎さん、相手になんなさんな」と言はれるのが母のきまつた言葉であつた。

いつしか船の旅は終つた。大阪の川口までやらへ著き、梅田驛から汽車に乗つた。その間に徹兄はかつての恩師、書家鐵山先生の御宅へ挨拶に行つた。私も一緒だつたやうに記憶してゐる。汽車は恐らく夜汽車だつたのであらう。何の記憶も残つてゐない。それに大阪からは喧嘩の相棒鼎兄が乗つてゐなかつた。新橋驛からは牛込の士官學校の横あたりに人力車を乗りつけた。酒井さといふ家だつた。母の

里、宇和島の人で、息子さんは帝大に通つてゐられた。秀才と聞いてゐるが卒業後間もなく亡くなられた。この家に幾日厄介になつたのか覚えてゐないが、たゞ一つ忘れ得ないこゝがある。息子さんの筆立に鉛筆があつて、それに銀色をした綺麗なキヤップがついてゐた。鉛筆に被せて、帯の環を引くこゝ、堅く締るやうな仕掛である。極く普通の品で、一錢か二錢のものであつたが、それが欲しくて、たうさう無断で失敬してしまつた。無断で自分の掌に持つてゐたこゝいふ理由で母からお小言を頂戴した。これは今も忘れるこゝの出来ない淺ましい少年の行爲である。

この家のすぐ近く、丁度士官學校の裏門の前に馬場があつて、騎兵とおぼしい人々が馬術をやつてゐた。少年の私はこれに尠からぬ興味を覺えてよくそれを見に行つた。今はそのあたりに家が建て込んでゐる。

數日後、東大久保、拔辨天の直ぐ下、鳥居の近くに家が見つかつて、そこへ移るこゝになつた。妙な家で、道路に面した出入口は二階に當り、一寸廻つて裏へ行くこゝ、階下になる。即ち斜面に建てられた家である。私達の借りたのは薄暗い下の家であつた。恐らく一間きりであらう。内部の様子は記憶にない。こゝへ来てまだ日の浅い頃、雪が降つたので、私は障子を開けて十坪程の畑を見てゐるこゝ、私も同じ年頃の東京の子供が二人道路の方から畑を覗いてゐ

たが、「おい雀の野郎がおこつちやつたよ」大きな聲を立てた。私は「おこつちやつた」こゝいふのは、「落ちた」こゝいふのだなき解釋した。それは畑の中の柿の木に二羽の雀がふざけてゐるが、一羽が急に墜落されたやうな恰好で下に落ちたからである。この時の印象は強かつた。その後、白い雪、柿の木、小さい雀を見るこゝ必ず、「おこつちやつた」を想出すからである。私は子供の朗らかな聲に何まなく誘はれて外に出た。そして二人の子供がしてゐるのを真似て、自分も道端の雪の中に顔を埋めてみた。くつくりこ顔が寫る、そのマスクの面白さ。獨り微笑みながら幾つも型をこつてみた。

家から數軒離れたこゝに同郷の、大塚さいふ人がゐて母は時々そこへ相談に行つて居られた。この人は後に郷里に歸つて村長になられたこゝ記憶してゐる。私達がこゝへ移つたのはこの人の紹介によるのであらう。家から下手は田圃で、田圃の向ふに森が見えてゐた。その中のあたりを汽車が汽笛を鳴らしながら走つてゆく。特に夜なき少年の心は、あの長く引く汽笛の音に言ひ知れぬ哀愁を感じたものだ。晝間、いつこゝはなしに、汽笛の聞えて來る方角へさまよひ出て、心ゆくばかり機關車さいふ魅力ある怪物を眺め、あの單調な運動に飽くこゝを知らず時を過してゐた。家に歸つて母や兄に、黒い煙を吐き白い湯氣を惜げもなく

噴出させて走る機關車の話をし、力強くカラン、カランと言つて走る鐵の車輪の眞似をして部屋中を走り廻つてみせた。それは昔の新宿驛であつたのだ。焼いた枕木の柵の間から眺めた機關車の頼もしさ！私の心は、それで一杯であつた。毎日田圃の畔道を急いで、まるでこれより外に世の中に觀る物

のないやうに思ひつめて、駆つて行つた。そのうちに、大久保の小學校へ轉校が許されて、大塚さんの家にゐる女の方に連れて行つて貰つた。雨のひさい日であつた。受持の女の先生が、たまたま、連れ行つてくれた女の人の友人であつたので、私は始めから、やさしくして貰つた。しかしこの小學校へは短時日しか通はなかつた。一家が牛込の水道町へ移つたからである。直ぐ上の天神様からは富士山が見えると言はれてゐるが、私はさうもはつきりその姿を記憶してゐない。また、この社の森は陰氣くさく少年の遊ぶさうではなかつた。或日何かの拍子でこゝにゐたものであらう、人力車が境内にはいつて来て、私に車屋が何か尋ねやうとする、するに車上の人が、「おい、保」をかけた。見上げるに、柳行李のかげにゐるのは、鼎兄なのである。大阪に居残つてゐた兄が、愈々母の膝下に歸つて來たのである。母は、これで、末の子を郷里の義弟に預け、他の四人の男の子を皆自分の懐に抱くこゝになつたのである。二番目の徹兄はこの頃から市廳の給仕さかで稼に出るやうになつた。小倉

の服を着た少年徹、いつも朗らかに、母の心づくしのお辨當を持つて出かけて行く。私も給仕になつてもいゝと思つてゐた。一番上の迪兄は青白い顔をして、家から外へ出るこゝもしなかつた。肺を病んでゐるのである。私達は「心臟が悪い」を聞かされてゐたが……

水道町の頃

牛込水道町に移る頃には、母にはお金の心配があつたらしい。上京の時、母の懐にいくら位あつたのだらうかさ、いつか徹兄にきいたこゝがあるが、「三千圓しか無かつた。それも瞬く内に消えてしまつた。迪兄が何ヶ月か病臥してゐる中に、母は柱に頼む迪兄にもしものこゝがあつてはさの憂慮から、醫藥には惜まらず金を使はれた。その上、迪兄は發明に熱中して、その方でも相當の金を消費した」さいふのが答であつた。私は「今日は特許局長の高橋是清さんに會つて來ました」さ兄が母に話してゐたのを覚えてゐる。水揚機械、その他專賣特許、實用新案が、迪兄の名によつて數種登録されてゐるさうである。若い發明家も、この頃日一日自分の肉體を削りつゝあつたのであるが、その熱心に動かされて母も手の出しやうが無かつたのであらう。三年後には、即ち二十三歳になるやならずでこの發明家も逝つてしまつた。

水道町ではタバコ、雜貨を商つてゐた。二階には早大の

學生が數人下宿してゐた。家の前に菓子屋があつて櫻餅の
おいしいのを賣つてゐた。私達の家は現存してゐるが、今は
見るも恥しい程のお粗末なものである。鼎兄は赤城小學校
へ、私は津久土小學校へ通ふことになつた。こゝで一番記憶
にあるのは火事である。一丁ばかり離れた角の酒屋が焼け
た時は、町中大變な混雑で、道路には十本以上もホースが、
水を噴いて竝んでゐた。スリバンが眞夜中に鳴つて、ねむ
い眼をこすりこすり起きたのであるが、「保さん、火事だ
よ、火事だよ、速く起きなさい」とゆり起されたのを今で
も言葉も一緒に覚えてゐる。兄達は荷物を運び出してゐた。

私は酒屋の近くまで行つてみたが、朦々たる煙、バリ／＼
燃えさかる焰、屋根の上で煙の中に眞白く光る幾本ものマ
トヒ「土藏の戸の隙間を味噌で塗れ」なごいふ聲も聞えて
きて、全くすばらしい見ものであつた。翌日、焼け落ちた
家を見に行つたが、味噌を塗つた土藏は助かつたこの話だ
つた。交番の横の柱のてつ邊には、昨夜私達の耳を驚愕さ
せた半鐘が、いごも小さくおさまつてゐた。

も一つの火事は早大の近くだつた。今の矢來下から先は
田圃だつたので、大學正門に通ずる一筋道を赤の手押ボン
プが急いで行つた。私も峠道を傳つてボンプに負けず走つ
て行つた。百姓家の火事で、暫く燃えたいけれども、田圃の
中の一軒家で、手押ボンプにさへ威壓されて白い煙が上つ

たかと思ふも、もう消えてゐた。その歸り路、稻田の中に
鳴子があつたのを今も記憶してゐる。變れば變るものであ
る。田圃と言へば、津久土小學校から遠足で飛鳥山へ行つ
たことがあるが、随分長い路を歩かされ、しかも田圃路を
歩いて歸つた。

水道町の頃の出來事で悲しいことが二つある。その一つ
は、私の袴の事件である。或る夕方、徹兄と母とが、ひそ
ひそ話をしてゐられた。大きな柳行李が出てゐる。私は
その側に自分の紋付羽織と袴とがあるのを目ざさく見つけ
て、駆け寄りざま二つを取らうとした。するに兄が、「持つ
て行つちやいかん」と怒鳴つた。しかし、私は「自分のだけ
ら」と主張した。兄はそれを奪つてしまつた。私はその袴が
何處へ行くのかは知らない。しかし、自分に屬すると思は
れる物品が、人に勝手に取扱はれることに對しては防禦手
段を講ぜざるを得ない。私は袴に武者振りついて放さない。
兄は叱る。私は泣く。たうさう私は大聲で泣き出してしま
つた。「厭だ、袴を持つていつちや厭だ、僕の袴だ。おつ
かさん、僕の袴だ。おつかさん、僕の袴です、ね。」この袴
はつい先日、紀元節にはいて行つたばかりの私にまつては
大切な袴だ。必死に取り戻さうとして涙や鼻汁で汚してし
まふかと思はれる程だつた。母は私を宥めて、「では、一寸
の間だけ、おつかさんに借して頂戴、きつ返してあげる

から「言はれたが、私は少しも譲歩しなかつた。それどころか、益々意地になつて、厭だ、厭だ。僕のものなんか何處へも持つて行つちやいけない。誰が借すもんか」言がなり立てた。私は泣き疲れてしまつた。兄は、「馬鹿な奴だ。おつかさん、構ひません、持つて行きませう」と言つたが、母はそれには同意なさらなかつた。私はこれを書いてゐて、亡き母にお詫をしてゐる。涙でお詫を……

も一つ、母に謝らなければならぬ。いや、この追憶は徹頭徹尾、母へのお詫と感謝の外何もない。晝でも夜でも外濠を通ると思出すのであるが、寒い夜なご殊にさうである。或る晩、母に連れられて水道町から四谷傳馬町の邊まで出かけたことがあつた。タバコの出願のためか何かで賣捌所へ行つたのである。身を切るやうな寒い晩で、四谷見附から濠に沿つて神樂坂下まで歸つて来たが、その寒さ冷たさといつたら無かつた。私は母の手にひかれて、「歩くのは厭だ」と駄々を捏ねてゐた。今のやうに市電も無く、路もまごころにさびしかつた。暗いばかりでなく、人通りも無かつた。濠の内側には、あか／＼と光を放つて二輛聯結の院線が走つてゐた。あの一種變つたガーガーと鳴る警笛は今も耳に残つてゐるが、私はあの電車に乗らなければ歸らぬと言ひ出した。母は何か私を宥めすかして、たうとう家まで連れて歸られたが、タバコの小賣をしようとなさる母

が、さうして院線なんかにお乗りになれるか、子供の私には分りやうは無かつた。たゞ私はその夜の母の心の中を推し量つてみる時、御自分の寒さは思はず、私の冷たい小さな手をしつかみ握つて、私を可哀相と思つて下さつた、そのお心が勿體ないのである。駄々を捏ねたりして、本當に濟まないことである。毎日の兄の藥代にさへ事缺くその當時の母に對して、如何に子供は言へ、もつ／＼母に優しくあるべきであつた。しかも前の袴の場合でも、この夜でも、また、その後當然ひびく叱られるべき場合に於ても母は無言、決して私に荒々しい言葉も、皮肉な言葉も仰有らなかつた。それに、ひきかへ、私など、子供に對して、小言や、辯解や、説明が多い。恥づべきことである。

つきねふ 山城路を 人夫の 馬よりゆくに

己夫し ちより行けば 見るごとに 音のみし泣かゆ

そこ思ふに 心しいたし たらちねの 母の形見と

吾ももたる まそみ鏡に 蜻蛉巾 おひなめ持ちて

馬かへわが背

馬買はば妹歩行ならむよしえやし石は踏むとも

吾は二人行かむ

ハイディ

(第二十四回)

津田芳雄譯

二十二、思ひがけないこと

あくる朝、おぢいさんは早くから起き出して、お天気工合を見た。峯の上には赫々金いろの光りが射し、そよ風がしづかに樅の枝をなぶつてゐた——お日様がのぼりはじめたのである。

おぢいさんはなほも立ちつづけ、みぎりの山の斜面がだん／＼と明らんで来て、夜の影が谷間から消えて行き、くぼみにも朝の光りが射しはじめ、やがて峯も谷も、いちめん朝の金いろの光りに洪水のやうに埋もれつくすのを、ぢつと見つめてゐた——お日様が、のぼり切つたのである。

おぢいさんは今日の山遊びの用意に、クララの寝椅子を小屋から曳き出して置いてから、子供

達によいお天気だぞ知らせに、中へ這入つて行つた。

丁度この時、ペーテルが登つて来た。山羊たちはいつものやうに安心してペーテルの傍へ寄り付かうことはせず、おつ／＼と逃げまはつてゐるやうだつた。ペーテルの機嫌がわるくて、むやみに鞭をふりまはし、そこいらでうろ／＼してゐれば、すぐ打たれるからだつた。もう幾週間もペーテルは、せんをやうにハイディと二人きりで遊べなかつた。朝のぼつて来れば、もうちやんち病氣の子供が寝椅子にねてゐて、ハイディはその子にばかり氣をまられてゐる。夕方降りて来ても、やつぱり同じ有様だ。ハイディはこの夏ぢう、一ぺんも

山へ行つたこゝがない。やつこ今日行くのだつて、やつぱりあの寝椅子の病人と一緒になのだから、さうせいちゃんち、そつちにつきつきりなのだらう。今朝ペーテルが特別機嫌がわるいのは、そのためだつた。目の前に、高い車のついた豪華な寝椅子が、傲然と据つてゐた。その高慢ちきな様子が癪にさはり、ペーテルは、まるでそれが、今まで自分をいぢめこぼし、又も今日いぢめつけようとしてゐる敵でもあるやうに、睨み据ゑてやつた。あたりを見まはすに、何の物音もなく、誰一人見てゐない。ペーテルは野獸のやうにそれに飛びかかるに、腹立ちまぎれに、谷をめぐりて激しく突き落した。寝椅子はくるくると轉がり落ちて、またたく間に見えなくなつてしまつた。

ペーテルは、急に羽でも生えたやうに一氣に山を駆けのぼり、おぢいさんに見付けられないやうに、大きな黒いちごのしげみに隠れた。しかもあの寝椅子がさうなつたか、見たくてたまらないのだつたが、それにはこゝはうつつけの場所だつた。自分は隠れてゐて、下の様子が手に取るやうに見えるのだつたから。頭をもたげて見るに、敵の寝椅子は、ごろ／＼大へんな勢で坂を轉がり

落ち、幾度かひつくりかへりながら、最後に大きく跳ね返つて、粉みぢんに碎けてしまつた。脚も、腕木も、背中のよつかかりも、それを包むおふさんの切れつばしも——方々へ散り散りに飛んで行つてしまつた。それを見るにペーテルは、胸がすう／＼して、うれしくてたまらず、大きな聲で笑ひながら、飛んだり跳ねたり、しげみを飛び越してぐるつこ一回まはつて来て、又思ひ出してげらげら笑ひ轉げたりした。敵をやつつけた満足さで、夢中になつてゐるのだつた。もちろん、自分に都合のよゝこしか考へて見ず、もうかうなつてはあの病人も、さうしても家へ歸るより仕方がなくなるから、さうすれば又ハイディはせんのやうに自分と一緒に遊べるやうになつて、なにもかもが元きほりきちん／＼行くだらうと思つたのである。ペーテルには、わるいこゝをすれば、あきできつこ面倒が起るこゝなき、考へても見なければ、知りもしなかつたのである。

ハイディは小屋から駆け出して来て、物置きの方へ行つた。おぢいさんはクララを抱いてついて来た。物置きは二枚の戸をはづして、隅々まで明るく、ハイディは中をよくしらべて見たが、こゝにも

寢椅子がないので、不思議さうに考へ込んでゐた。

「これはさうしたこまぢや、ハイディ。お前がここへ寢椅子を押しして行つたのかね」

「わたしも方々さがしてゐるさころなのよ、おぢいさん。ちやんご出してあるつて仰しやつたわね」

それから、又も隅々まで探しまはつた。

その時、急に風が吹き起つて、物置ききの戸をあふつて、ばたん／＼と壁に打ちつけた。

「ああ、わかつた、風だわ、おぢいさん」

ハイディは急に思ひ付いて、それから突然心配さうに云つた。

「でも、もしか風が、デルフリの方まで吹き飛ばしたのだつたら、なか／＼取つて來られないわね。今日の間に合はなくて、お山へ行けないかも知れないわ」

「下まで吹き飛ばされて居つたら、もう駄目ぢや。粉つ葉みぢんぢやからな——それにしても、さうもをかしい」

おぢいさんは、椅子がおいてあつた所から坂までは、角を一つ曲らねばならないのに、そこまで椅子がひこりて歩いて行く筈はないし、さうも不審でならないのだつた。

「まあ、つまらないわ」

クララは悲しがつた。

「今日は行かれないのねえ。いつになつたつて、もう行かれないかも知れないんだわ。椅子がなくなれば、あたしはおうちへ歸らなきやならなくなるのかしら。まあつまらない、つまらないわ!」

けれどもハイディは、いつもの信じ切つた眼で、おぢいさんを見上げた。

「おぢいさん、クララが云つたみたいなの、あんなことにならないやうにして頂戴。クララがおうちへ歸らなくつてもいいやうに。ねえ、おぢいさん」

「よしよし、今はまづ、豫定さほり山へのぼることにしよう。あまのこまは又、あまで考へるさ」

子供達は大方こびだつた。

おぢいさんは中に這入り、一ミ抱えの肩掛けを持つて來て、一等よく日の當るさころへ擴げ、クララを坐らせた。それから子供達の朝のお乳を持つて來て、二匹の山羊を出してやつた。

「ペーテルはさうしたのぢやらう」

今朝はまだ一度も口笛が聞えないので、ちよつと不審に思ひながら、片手にクララを抱き、片手に肩掛けを抱えて、云つた。

今朝はまだ一度も口笛が聞えないので、ちよつと不審に思ひながら、片手にクララを抱き、片手に肩掛けを抱えて、云つた。

「さあ、出掛けようかな。山羊共は、ほつておいてもついて来る」

ハイディは大よるこびで、二匹の山羊の肩に手をかけてやりながら、おぢいさんのあこからついて行つた。山羊たちはハイディと又一緒に山へ行けるうれしさに、あんまりぎう／＼身をすり寄せ来て、も少しでハイディを両方から押しつぶしてしまふところだつた。

山羊たちがいつも草をたべるところまで行つて見るさ、ほかの山羊たちはもう来てゐて、岩の間を走りまはつて居り、ペーテルは長々寝そべつてゐるので、みんなはびつくりした。

「こりや、怠け者。そんなことをしてゐるさ、あこでひきい目に逢ふぞ。一體これは何事ぢや」

おぢいさんが聲をかけるさ、ペーテルは鐵砲玉のやうに飛び起きて、

「誰もまだ登つて来やしなないよ」

さ、さんちんかんな返事をした。

「何か椅子のやうなものは見かけなかつたかね」

おぢいさんが訊ねるさ、

「そんな椅子のこゝだわ」

ペーテルは、つんけんさんに答へた。

おぢいさんはその上も何も云はずに、日當りのよい斜面に肩掛けをひろげ、クララを坐らせて、坐り心地はよいかさたづねた。

「あたしの椅子にかけてるのさ、おんなじだわ」クララはおぢいさんにお禮を云ひ、うれしさうにあたりを眺めながら叫んだ。

「ほんにきれいなさころねえ、ハイディちゃん、氣持がいいわねえ！」

おぢいさんは一さまづ歸ることにした。二人でゐれば面白しいし、心配なことはないし、おひるになれば、くぼみの所にお辨當が置いてあるから、ハイディが取つて来て、ペーテルに幾杯でもお乳をしぼつてもらつて飲めばよく、ただくれぐれも「小さい白鳥」のお乳をしぼつてもらふやうに氣を付けること、自分はこれから、椅子がさうなつたかを見届けに行つて来て、夕方迎ひに来てやること云つた。

空は紺青に晴れわたり、一點の雲もなかつた。頭の上の大雪原は、幾千の金銀の星が縷められたやうに、キラ／＼と光つてゐた、峯の頂きが二つ、青空にくつきりさ聳え立ち、太古さながらの嚴かさで、ちつと谷を見下ろしてゐた。大きな鳥は晴

れた大空に高々ミ羽をのぼし、山風は峯をわたつて、日向の斜面にやすむ子供達のミころまで、そよ／＼吹いて来た。なにもかも、クララミハイディには、口に云へないくらゐ楽しかつた。時々小山羊たちがあそびに来ては、二人のそばに寝ころんだ。「ゆき」が一等よくやつて来て、小さな頭をハイディにすり寄せて来るのだつたが、あまり長く二人のそばをひさり占めにしてゐるミ、ほかりの山羊たちが、きいてくれミ追ひ立てに来るのだつた。クララはすつかり山羊たちを見覚えてしまひ、一匹一匹顔立ちもくせも思ひ思ひに違つてゐるので、もう決して間違へるやうなミはなかつた。山羊たちもクララになつき、お近づきミ大好きしのしるしに、クララの肩に頭をすり寄せて来るのだつた。

かうして楽しく何時間が経つうちに、ハイディは急に澤山のお花が咲きみだれてゐるミころへ、行つて見たくなつた。今でも去年ミおんなじに咲いてゐるかしたら、クララはおぢいさんが、夕方迎ひに来てくれるまでは行けないけれど、それまで待つてゐては、しぼんでしまふかも知れない——なミミ考へはじめるミ、もうぢつミがまんがして

ゐられなくなつて来た。

「ねえ、クララちゃん、もしかわたしが、ちよつミだけ向ふへ行つて来て、あんた怒らないミ？」

ハイディは少しもぢ／＼しながら、云ひにくさうに云つた。

「——ね、ぢきに歸つて来るわ。お花がさうしてゐるか、ちよつミ見て来たいの——あ、ちよつミ待つて」

いいこミを思ひ付いた。走つて行つて一束の青い葉っぱを摘んで来るミ、「ゆき」をクララのそばへつれて来た。

「さあ、これでひさりぼつちぢやないわ」

ハイディは「ゆき」にそこへ寝ころべミ合圖をし、クララの膝に葉っぱをのせてやつた。クララが、山羊ミお留存をしてゐるのは面白いから、早くお花を見ていらつしやいミ云ふミ、ハイディは駆け出して行つた。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ興ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
 - 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 - 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
 - 第十二條 本會ハ必要ニ應ジテニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
 - 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定規文注

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵送料)で願ひます。
 (郵券代用の場合には換金(郵便貯金)で願ひます。御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

不許複製 禁止轉載

發行所

振替口座東京一七二六六番

東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
 編輯者 倉橋 惣三
 發行所 柴山 則常
 印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 倉橋 杏林 舍

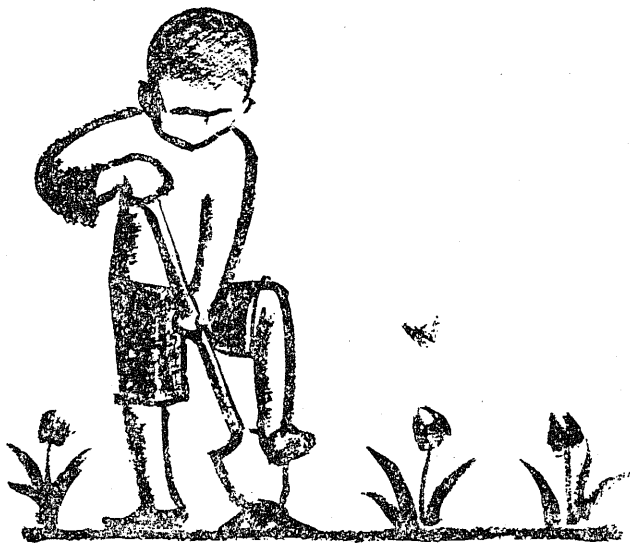
昭和十五年三月二十八日印刷納本
 昭和十五年四月一日發行
 幼兒の教育 第四十卷 第四號

ヶ月分	金參拾五錢	符等面一頁	二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金拾圓	金拾圓
一年分	金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓
送金	共	廣	告
拾貳冊	送金	廣	告
拾貳冊	送金	廣	告

新學年と御設備

土に親しむ適度の勤勞と運動とに、明朗潤達なる健康保育園兒方の健康保持と促進とは左の僅少な設備費を以て足る

- ◇木 鋤 (十本) 金四圓三十錢
- ◇新案杓子 (十個) 金一圓五十錢
- ◇一合桝 (十個) 金一圓八十錢
- ◇板 箕 (十個) 金二圓三十錢
- ◇秤 (十個) 金三圓五十錢
- ◇汽車ミトンネル(一組) 金一圓八十五錢
- ◇砂 型 (四組) 金五十錢
- ◇砂場の背景 (一組) 金二圓五十錢
- ◇砂場交通用具 (十五個) 金四圓
- ◇砂場用積木 (百廿個) 金三十三圓



所 行 發

食館レベレフ 社會式株

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社 本
番七二八三(24)話電・五町後備・區東・阪大 店 支

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可

昭和十五年三月二十八日印刷納本

定價參拾五錢